

# 助成事業報告集

2019年度助成対象事業要覧



Kiguchi

Kiguchi Foundation  
公益財団法人 **木口福祉財団**

# も く じ

- **2019年度助成事業の概要** ..... P 2
  - 1. 助成事業の趣旨
  - 2. 助成内容
  - 3. 助成予定額
  - 4. 公募
  - 5. 助成対象の選考
  - 6. 選考結果の通知および助成金の交付
  - 7. 対象事業の完了報告
  
- **2019年度助成対象事業一覧** ..... P 4
  
- **選考委員** ..... P 107

# 2019年度助成事業の概要

## 1. 助成事業の趣旨

公益財団法人木口福祉財団は、福祉活動やボランティア活動等の事業に対する助成を通じ、市民参加型福祉の促進と地域振興をはかり、障がい者等の社会的に弱い立場におかれている方々にやさしい、明るく住みやすい地域社会の創造に資することを目的としています。

## 2. 助成内容

### 地域福祉振興助成

地域福祉振興助成は、障がい者や社会的弱者を支援する福祉活動やボランティア活動で、特に公的補助を受けることが困難である団体などに必要資金を助成します。

#### (1) 対象団体

障がい者や社会的弱者を支援する福祉活動及びボランティア活動に取り組む団体・グループ

#### (2) 対象事業

- ・事業の立ち上げにかかる活動運営費
- ・工事費
- ・備品購入費
- ・調査、研究費
- ・講習会、イベント等の企画開催費

## 3. 助成予定額

年間の助成金総額 45,000,000円

## 4. 公募

#### (1) 公募案内

助成金公募の案内は、事前に当財団のホームページ、社会福祉協議会の機関誌、その他関係団体の機関誌などを通じて実施し、WEBでの申請または、申込書類一式を郵送で配付しました。

## **(2) 公募期間**

2019年3月18日から4月18日まで

## **(3) 応募件数**

207件

## **5. 助成対象の選考**

### **(1) 一次選考**

すべての申込案件について、4名の選考委員が書類選考を実施しました。  
一次選考による結果 95件

### **(2) 聞き取り調査の実施**

一次選考を通過した95件について、6月から8月にかけて聞き取り調査を実施しました。

### **(3) 最終選考**

2019年度の助成対象団体は、選考の結果下記の通り決定しました。

助成件数と助成総額

66件      41,680,000円

## **6. 選考結果の通知および助成金の交付**

### **(1) 選考結果の通知**

すべての申込案件について、選考の結果を書面で通知しました。

### **(2) 助成金の交付**

各団体と「助成金に関する覚書」を交わし、振込みで交付しました。

## **7. 対象事業の完了報告**

助成対象事業の完了後、各団体より所定の書式で事業完了報告の提出を受けました。

## 2019年度 助成対象事業一覧

### 地域福祉振興助成 工事

---

(福島県)

P7 株式会社クーラ・LAB

P9 特定非営利活動法人あんだんて

P11 一般社団法人子ッカラ

(千葉県)

P12 特定非営利活動法人カモミール

(長野県)

P14 特定非営利活動法人キッズウィル

(岐阜県)

P15 一般社団法人サステイナブル・サポート

(大阪府)

P17 特定非営利活動法人コスモス

(兵庫県)

P19 特定非営利活動法人夢のたね

P20 社会福祉法人ひびき福祉会

P21 一般社団法人フェイス

P22 特定非営利活動法人阪神・障害者人権ネットワーク

(鳥取県)

P23 特定非営利活動法人リカバリーポイント

(岡山県)

P25 特定非営利活動法人福老

P26 一般社団法人岡山県障害者地域生活支援センター

P28 特定非営利活動法人ライフデザイン

(広島県)

P30 特定非営利活動法人風の家

### 地域福祉振興助成 備品購入

---

(青森県)

P32 特定非営利活動法人農楽郷ここ・カラダ

(茨城県)

P33 社会福祉法人茨城いのちの電話

- (栃木県)
- P34 点訳グループ「桐」
- (埼玉県)
- P36 特定非営利活動法人ヒールアップハウス
- (千葉県)
- P37 特定非営利活動法人千葉盲ろう者友の会
- (神奈川県)
- P39 特定非営利活動法人アール・ド・ヴィーヴル
- (福井県)
- P40 特定非営利活動法人ピアファーム
- (山梨県)
- P42 社会福祉法人あすなろの会
- (岐阜県)
- P44 社会福祉法人楽山・杜の会
- (静岡県)
- P46 特定非営利活動法人POPOL0
- (京都府)
- P48 社会福祉法人白百合会
- (兵庫県)
- P51 特定非営利活動法人花咲
- P52 特定非営利活動法人あんずぼこ
- P54 社会福祉法人いたみ杉の子
- P56 特定非営利活動法人元気アップみのり
- P57 三木要約筆記ダンボ
- P59 特定非営利活動法人あすなろ
- P61 一般社団法人i-crosso
- P63 社会福祉法人ぶったあ福祉会
- (島根県)
- P64 認定特定非営利活動法人療育センター燦々
- (岡山県)
- P66 点訳サークルてん
- P67 公益社団法人日本オストミー協会岡山県支部
- P68 合同会社TAKIBI
- P70 特定非営利活動法人彩
- P71 特定非営利活動法人グリーンハウス
- P72 特定非営利活動法人よりそいグループ
- P73 特定非営利活動法人トラストワークス

- P74 特定非営利活動法人れんげ福祉会  
P75 特定非営利活動法人あゆみの会  
P76 総社市地域自立支援協議会日中活動事業所連絡会  
P77 特定非営利活動法人東備  
（広島県）  
P78 特定非営利活動法人びいあらいび  
P80 特定非営利活動法人きずな  
（香川県）  
P81 特定非営利活動法人手と手と手  
（熊本県）  
P83 特定非営利活動法人くまもとスローワーク・スクール

## 地域福祉振興助成 企画開催

---

- （埼玉県）  
P85 一般社団法人埼玉障害者自立生活協会  
（京都府）  
P88 京都NABA  
（兵庫県）  
P90 一般財団法人カナウ  
P92 社会福祉法人神戸いのちの電話  
P94 公益社団法人日本オストミー協会兵庫県支部  
P95 神戸市難聴者協会  
P97 神戸カンファレンス  
（島根県）  
P98 一般社団法人アートスペースからふる  
（岡山県）  
P99 岡山難病団体連絡協議会  
P103 公益社団法人岡山県難聴者協会  
（愛媛県）  
P104 一般社団法人ドックフォーライフジャパン  
（鹿児島県）  
P106 特定非営利活動法人ハッピープリンデン

# 株式会社クーラ・LAB

【所在地】 福島県福島市

【対象者】 重症児・医療的ケア児

【日常の活動】

児童福祉法に基づく障害児通所支援事業・・・1才から未就学児を対象とした児童発達支援と小・中・高生を対象とした放課後等デイサービスの多機能型デイサービスの事業。

## 「重症心身障がい児通所支援事業所 a o z o r a ・リノにおける安全確保の為の工事」

【助成額】 61万円

### 実施目的

通所支援サービスを利用する重症児および医療的ケア児等が安全、かつ安心して訓練活動ができるよう、さらには安全に施設への入場・退場ができるよう改修工事により課題の解決を図る。また、安全・安心な活動への配慮ならびにサービス向上に日々取り組む職員の負担軽減を図り、安全に更なるサービスの質が追求できる職場環境の改善を行う。

### 実施内容

#### 1) 安全に活動できる室内スペースの確保 (11/15～11/18)

訓練室 (15.90 m<sup>2</sup>) と相談室 (4.66 m<sup>2</sup>) の壁を撤去し、訓練室を 20.56 m<sup>2</sup> に拡張し、利用児童が安全に活動できるよう修繕工事を行った。

- ① 壁の解体・撤去・補修・壁クロス張替
- ② 電気工事 (スイッチ・コンセントの移動、照明器具の設置)

#### 2) 安全に入室・退室できるよう外部スロープの修繕

らせん型のスロープをストレート型のスロープに修繕し、さらに内側にある手すりを撤去することで筋緊張のある児童等の手足の巻き込み対策を行った。さらに冬期の積雪・凍結対策としてスロープへの屋根を設置した。

- ① スロープ コンクリート工事 (11/15～11/18)
- ② スロープ 屋根施工工事 (11/30～12/1)
- ③ 手すり撤去、転落防止ブロック設置 (12/10)



## 得られた効果

### 1) 室内スペースの確保による活動の安全確保

定員5名の施設として十分なスペースが確保され、歩ける医療的ケア児との活動も一緒に安全に行うことが可能となった。さらには、室内の壁の撤去により職員の視界が広がり利用児全体の様子が安易に確認できるようになり安全性が向上した。

### 2) 安全に入室・退室できるよう外部スロープの修繕

ストレート型のスロープへの修繕、かつ内側の手すり撤去により手足の巻き込みの危険がなくなり、スムーズで安全な入退室ができるようになった。さらに屋根の設置により、雨天や降雪などにおいてもスムーズで安全な入退室が可能となった。

## 今後の課題

地域に初めての重症児を主とする通所支援事業所として、行政や医療機関等からも理解されつつあり、昨年11月からは福島市のこども部会における医ケア児等支援検討協議会のメンバーとして参加することとなり、さらに12月には福島県立医科大学付属病院の看護師研修の受入もありました。地域における重症児や医ケア児への連携や取り組みは進むものと期待されます。

当事業所においても定員(5名)を超える利用申し込みの日もありキャンセル待ち等の状況や児童の成長に伴う生活介護等への支援サービスなど、事業所の拡張が必要となることが見込まれます。

しかしながら、福祉の分野で働く医療人材(看護師、機能訓練担当職員など)の確保や定着は非常に困難な状況にあり、更なる利用児受け入れの為に施設を検討するうえでの大きな課題となっております。

# 特定非営利活動法人あんだんて

<http://www.andante-pokke.jimdo.com>

【所在地】 福島県郡山市

【対象者】 知的障がい児、発達障がい児

【日常の活動】

放課後等デイサービスぽっけII (定員10名)

## 「障がい児通所支援事業所における送迎用車両の購入」

【助成額】100万円

### 実施目的

2つ目の事業所を開所した際、1つ目の事業所と共同で送迎車を使用していたが進学に伴い送迎する学校が広範囲になり車が不足して職員の自家用車を使用する状況になった。自家用車を使用した場合のリスクを避けたいこと、中古購入車が20万kmを超えトラブル続きだったため今年7月廃車にしたため、利用者の送迎が困難を極め、スムーズに安全に行うために新しい車が必要になったため。

### 実施内容

#### ■送迎用車両の購入

送迎場所

【お迎え】

郡山市立小学校(13カ所)

郡山市立中学校(2カ所)

福島県立あぶくま支援学校(小等部・中等部・高等部)

わかば幼稚園・開南幼稚園・ひまわり保育園・虹保育園

【送り】<自宅:郡山市内>

大槻町・富田町・久留米・菜根・喜久田町・安積町・備前館・堤下町・開成・中田町・堤・台新・愛宕町・三穂田町  
堤下町・七ツ池・図景・昭和・緑が丘・片平町



### 得られた効果

広範囲になっていた利用者の学校へのお迎えがスムーズになり、事業所までの乗車時間も短縮することが出来た。寒くなってきた今は特に下校時刻に遅れて利用児を待たせ、先生方にご迷惑をかけることもなくなり、職員も安心して業務に携わることが出来ている。事業所に到着する時刻が早まったために療育の時間も十分に取ることができ、少しでも長く楽しい時間を過ごすことも出来るようになった。



## 今後の課題

まだまだ利用者数に対して事業所数が少ないため、日中一時支援事業を今年の7月から開始したが、共働きの家庭が多いため、送迎希望が殆どである。送迎担当の非常勤職員を増やしていくには、金銭的な問題と、またまた車の問題が出てきていたちごっこの様相を帯びている。利用者居住地や学校を特定するとまたまた問題が生じることから何か妙案がないか模索していくところである。

# 一般社団法人子ッカラ

<http://kokkara.org/wakuwaku/>

【所在地】 福島県白河市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

放課後等デイサービスの運営をしております。まず、利用者ごとに学校へお迎えに行きますが、学校のお休みのときは朝から自宅へお迎えに行きます。主に自閉症のお子さんが利用されていますが、手洗い、排泄、食事（おやつ）などの生活訓練と自立課題としてマッチング、文字や数字の理解を交えた教育を通して自己肯定感を育む活動をしております。土日祝日は、障害児事業はお休みなのですが、そのときは子ども食堂として開放し一般の地域の子どもと大人の方も利用してもらうよう活動しております。

## 「わくわく新白河 エアコン等改修工事申請」

【助成額】 72万円

### 実施目的

現在の地域社会は、人と人が繋がることに障害があるように感じております。私たち福島県民は原発事故において分断を余儀なくされましたが、今後は地域でのつながりを大切にしていくことが原発風評被害からの収束への新たな課題だと思っております。まだまだ、まわりは「不自由さ」「生きにくさ」を抱えております。「自分さえ良ければそれでよい、あなたはあなた」というわけではなく、だれかの役にたちたい、支援した幸福感というものを感じられる社会を実現したい。幸福感があるから人を許せる、共に生きていくという関係性を応援することを目的に発足いたしました。

### 実施内容

今後の就労支援と現在を行っている放課後等デイサービスとの区別を分けるため事業所わくわく新白河内にて、勉強部屋と機能訓練室との間に扉を設置しました。また機能訓練室の勉強部屋のエアコンの設置。大人数が予想されることと、昨今の温暖化による影響、室内の大人数での活動による温度上昇が、利用者さんに悪影響を及ぼすので、より効果の高いエアコンの設置



### 得られた効果

効果としては、老朽化したエアコンではほとんど消えることのなかった室内空間が、より低い温度を保っているようになりました。また、除湿機能もあることから不快感なく過ごせるようになりました。利用者さんが快適に過ごせることで、より高い支援ができたと思います。同様に扉を設置することで、勉強や実習に集中することができ、重度の方も不安なく他の方からの影響も少なく過ごすことができ、効果の高い勉強や実習ができました。

### 今後の課題

今後の課題としては、出来て間もない法人なので他の就労支援の成功事例や福島県会での活動事例を通して東方時にでも取り入れていきたいと思っております。出来て間もない法人なので他の就労支援の成功事例や福島県会での活動事例を通して東方時にでも取り入れていきたいと思っております。それが結果福島県内の活気につながれば震災があったことを乗り越えていけると思っております。



# 特定非営利活動法人カモミール

<http://hanakoubou-chamomile.org/>

【所在地】 千葉県柏市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

- 生活介護事業:生活介護事業所として認可を受け、障害者の受け入れと日中活動の支援を行う。
- 日中一時支援サービス:市の委託を受けて、障害者の日中一時預かりと支援を行う。
- 公園整備事業:市の委託を受けて、近隣の公園整備、清掃を行う。
- コミュニティーガーデン:柏市の運営する「カシニワ制度」により、近隣の地主から借り受けた空き地を「コミュニティーガーデン」として有効活用し、花苗等の購入については、その一部を市の助成を受けてハーブ園として整備、運営を行うと共に市民に公開している。
- 園芸店:施設と近隣住人のコミュニケーションの場として花屋を営むとともに、利用者が栽培した花やハーブの販売、隣接する施設の工房で作成した寄せ植えやリース、各種のハーブティーなどの加工品の販売を行う。
- ハーブ加工品の販売：利用者の工賃UPを目的に、農園で栽培し、施設の工房で加工したハーブ関連商品の製造と店舗とネットを含めた販売を行っている。
- 寄せ植え教室：近隣の主婦を対象に、季節に応じた草花の寄せ植えや、リースづくりの講習を行う。
- 花壇整備：近隣の公民館やショッピングモールの植え込みの整備、植え替え等の受託業務。

## 「井戸及び灌水システム整備」

【助成額】 91万円

### 実施目的

就労継続B型施設の設立にむけ、現在は生活介護の日中作業の場として活用しているカモミール農園を活用し、ハーブとハーブ関連製品の製造、販売を新たな収益事業の柱とするため、農場に井戸と灌水システムを整備し、商品化に向けた計画栽培が可能な就労の場として再整備する。

### 実施内容

敷設場所：カモミールコミュニティーガーデン（千葉県柏市）

1. 井戸掘削 園内に水道がないため、井戸工事を行うことで水を確保しました。
2. 電気工事 近隣の道路から線を引いて井戸ポンプに給電しました。
3. 園内区画再整備  
灌水システムを整備するにあたり、スプリンクラー等での散水が効率的にできるよう、ナチュラルガーデン風であった園内を区画に再整備しました。
4. 灌水システム整備 園内全域についてスプリンクラー、点滴ノズル等での散水システムを敷設しました。



## 得られた 効果

### 1) 区画再整備による成果・効果

- スプリンクラーを前提に区画が再整備されたため、利用者にとっても作業がしやすく、支援者にとっても指示がわかりやすく伝えられる様になりました。
- 区画毎で栽培育種を管理することで、販売用ハーブの栽培管理が容易になりました。

### 2) 灌水システムによる成果・効果

- 農場全体の散水が非常に楽になりました。(以前は事実上不能になっていました)
- タイマーによる散水が可能になりました。
- 農場全体のスプリンクラーを稼働させることで、周辺気温が下がり、夏場の利用者の日中作業が楽になりました。
- 栽培育種に応じて散水量を調整出来るようになり、栽培品種や工程を管理することが出来るようになりました。

### 3) 園芸療法について

- 日中支援の柱となる「園芸福祉・療法」について、大学連携によるフィールド研究の最適な場所となりました。

### 4) その他

- 灌水システムが整備され、施設見学者の皆さんが、非常に驚き、また喜んでいただけるようになりました。利用希望者に向けて、最大のアピールポイントとして活用できます。



## 次の課題

### 1) 就労継続B型施設の設置

灌水システムの整備により、商品化に向けた計画栽培と収穫が可能となり、就労B型施設に必要な収益事業立ち上げに向けたインフラが整備されました。この成果を受けて、昨年末にはYahoo ショップにカモミール店舗をオープンし、また施設の花屋についても今年8月にアクア・ハーブ専門店として業態を変更する予定で、現在改装中です。今後については、このインフラを有効に活用し、商品化に向け、利用者が余裕をもって参加できる製造工程の確認と販売に向けたマーケティングを強化し、必要な工賃レベルをクリアする体制づくりを目指します。

### 2) 地域協業によるコミュニティースペースとしての活用

現在も企業と連携し、障害者枠で雇用された社員を含め地域ボランティアの方たちと一緒にハーブの栽培に取り組んでいます。施設の位置する花野井地区については、高齢化が進んでいることもあり、区画の再整備と灌水システムが整備されたことを踏まえ、今後地域連携を更に進めることで、地域住民の憩いの場として、または地域活動の場としての利用を推進できる可能性があります。

# 特定非営利活動法人キッズウィル

<http://www.kidswill.net/>

【所在地】 長野県大町市

【対象者】 発達障がい児

【日常の活動】

児童福祉法に基づく事業

・障害児通所支援(児童発達支援、放課後等デイサービス) ・障害児相談支援

市町村委託事業

・配食サービス ・児童療育支援 ・日中一時支援 ・生活困窮世帯学習支援 ・子ども若者社会参加支援

・子ども食堂

## 「キッズウィルたからばこ空調設備工事」

【助成額】 32万円

### 実施目的

障害児通所支援施設「たからばこ」にエアコンを設置し、環境整備を図る。

### 実施内容

障害児通所支援施設「たからばこ」の1階と2階にエアコンを1台ずつ設置した。

たからばこ 長野県大町市大町 1123-11

1階 指導訓練室 S40VTEP 200V

2階 事務室兼相談室 S36VTEP 100V



### 得られた効果

快適な環境が生まれ、利用者や保護者、スタッフ等から感謝の声が寄せられている。

### 今後の課題

障害児通所支援施設「たからばこ」では、屋根や外壁材が劣化しており、また、雨樋が破損していて、補修が必要となっている。また、開所準備中、寒波により水道が凍結して水漏れ事故を起こした経過があり、気密性・断熱性を高めるためサッシを二重にしたい。また、敷地の一部に現行の建築基準に適合しない古いブロック塀があるため、これを撤去したい。

利用者にとって安全安心な環境を逐次整備し、良質な児童発達支援や放課後等デイサービスの提供に努めたい



# 一般社団法人サスティナブル・サポート

<https://sus-sup.org/>

【所在地】 岐阜県岐阜市

【対象者】 精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

- 就労移行支援事業所ノックス岐阜の運営
- 就労定着支援事業所ノックス岐阜の運営
- 発達障害者・精神障害者の家族会 2か月に1回の頻度で実施。講師によるミニ勉強会と家族同士の交流目的の茶話会。
- ソーシャルフットサル事業 障害者や生きづらさを抱えた人が対象。月1回のペースで実施。地域のフットサル大会等へも毎年出場する。
- 障害診断・受容はないが発達障害特性の見られる大学生(グレーゾーン学生)を対象としたキャリア支援事業 就労移行支援事業等福祉サービスにつながる段階では、問題が複雑化していて就労までに時間がかかるため、学生の段階で適切な支援を受けることを目的に2017年度より実施。

## 「町屋をリノベーションした B 型事業所の新設」

【助成額】 100万円

### 実施目的

岐阜市の川原町にある町屋を改装し、就労継続支援 B 型事業所を新たに開始する。地域の伝統産業や観光業と協働し、地域を支える価値のある仕事を軸とした施設運営を目指す。

これまで福祉事業所を利用することを躊躇していた、知的に遅れはなく能力は高いがメンタルの調子が整わない精神障害・発達障害のある人が利用しやすい環境や仕事を整える。



### 実施内容

岐阜県岐阜市の中央を流れる長良川沿いに、岐阜城の城下町として発展した川原町にある、古い町屋を改装した B 型事業所を新規オープンしました。建物はもともとカフェとして営業されていた場所で、建物内に 2 つのテナントが入居し、道路に面した部分は和食の飲食店、奥が B 型事業所アリーとなっています。今回頂いた助成金では、主に利用者さんが安心して利用できるアリー専用のトイレ(2つ)と洗面所を新設しました。もともと納屋だった場所を水回りとして回収し、床や壁の工事から、トイレなどの器具を設置しました。また、面談室となる部分の建具を付けたり、飲食店との境としての壁を強化したり、入り口のドアとカギを付けたりし、無事に B 型事業所としての指定を受け、令和 1 年 10 月 1 日より事業所を開始しています。

### 得られた効果

令和 2 年 3 月現在、アリーには 6 人の利用者と、4 人の体験者(申請中)の方がいます。そのほとんどの方が、B 型事業所をはじめとした福祉事業の利用は初めての方です。心身の調子が整わず一般の就労は難しいけれど、これまで B 型事業所の雰囲気にはなじめなかった方が、アリーを利用しています。私たちが当初想定していた通り、「アリーなら来れる」という方が多いです。これまで、在宅で社会との接点のなかった女性たちが、アリーを利用し始めてから、帰り道に長良川沿いや岐阜公園を散歩し外に出るようになったり、週に 2 回の通所をまずは頑張る等、生活にメリハリがついてきて、少しずつ社会復帰に向けて動き出すことができています。

## 今後の課題

アリーに来ている利用者さんは、これまで他の事業所には通所が難しかった人となります。工賃向上の関係から、今はB型事業所でもできるだけ週5日程度の通所を求められますが、アリーの利用者は平均週2日程度、1日2時間程度の通所からスタートしています。そのため、工賃は、時給計算だと150円～200円程度ですが、月額となると3000円程度の方がおおくなり、工賃の向上を求められることになることが想定されます。

今後は、利用者さんの体調に合わせて、少しずつ通所の時間を増やしていき、たくさん働きたいという方にやりがいのある仕事と工賃を支払えるよう、仕事の体制を整えていきたいと思っています。しかし、「誰ひとり取り残さない」という私たちの信念に基づき、週2日しか来れない、アリーだから来れる、そんな方に門戸を開き、平均工賃にこだわらない柔軟な施設運営を目指していきたい所存です。



# 特定非営利活動法人コスモス

<https://cosmos-ume.jimdo.com/>

【所在地】 大阪府大阪市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの生活介護事業を実施しています。主に知的障がいをもつ方々が、日中活動の場として過ごしておられます。紀州産の梅干しや三重県産の有機野菜を販売・配達したり、やりがいを持ち生き生きと過ごす事を大切にサービスを提供しています。

## 「シャワー設備取付工事」

【助成額】 80万円

### 実施目的

利用者さんの高齢化によりトイレの失敗も以前より増えています。しかしながらシャワー設備などが無いために利用者さんの身体を洗うことができず、おしり拭きできれいに拭くなどの対処をしていましたが、利用者さんの衛生面において決して満足いくものではありません。スタッフも介助時に大変苦勞しており、これらの課題をクリアするためにシャワー取付工事を実施しました。

### 実施内容

障がい者用トイレ内に汚物流しを設置しておりましたが、その汚物流しを撤去し、シャワーユニットに取り換える工事を実施しました。ユニットバスルームをトイレ内に設置し、シャワーユニットを取付けました。またシャワーユニット内の換気扇の不具合があったため、トイレ及びシャワー内の新しい換気扇の取り換え工事が追加されました。またシャワーユニット内への手すりの設置工事も追加しています。工事実施後はトイレ兼シャワールームになりました。



### 得られた効果

シャワー設備設置に関しては利用者さんの衛生面の向上はもとより、スタッフの介助時の業務効率化、また入浴サービスという新たなサービス提供にもつながると期待しています。また主な使用用途としては、便などの付着をきれいに洗うといったようなイメージをしていますが他にも、単純に汗を流すといった使い方もできると考えています。配達や販売という当事業所の仕事の性質上、暑い夏に外出することもあります。汗をかかれた際は、その汗を流しリフレッシュしていただけたと思います。

## 今後の課題

現在、当法人の事業は生活介護事業所の運営のみです。私たちの当面の課題は生活介護事業所の継続的な運営、サービスの質の向上、地域とのつながりを深めることです。その中で一番の問題は、事業運営に係る費用の捻出です。収益のほとんどが国からの給付費であり、利用者数の増減に比例します。不安定かつ収益の増加の見込みも少ないことに、頭を悩ませています。

また地域の方々と一緒に取り組むイベント、場所を創出したいと考えています。現在は他団体、他事業所主催のイベント等への参加や、販売・配達を通して地域の方々と触れ合う機会を持っています。地域とのつながりを深めることは当法人の大きな課題であり、利用者さんが地域で生き生きと暮らすために必要なことであると感じています。地域での役割を果たし、地域に必要とされる存在でありたいと思っています。

# 特定非営利活動法人夢のたね

【所在地】 兵庫県姫路市

【対象者】 知的障がい

【日常の活動】

障がいの程度が重い人が多く在籍してきたので生産的な活動よりも身の回りの食事、排せつ、着脱、移動などの訓練や余暇活動などに重点を置いた日課構成を実施してきた。

## 「玄関周辺の拡張と整備」

【助成額】 100万円

### 実施目的

- 利用者、職員が毎日利用する玄関が狭くて衝突などのトラブルが頻繁にある。ゆったりと靴の着脱などできる空間がほしい。足の悪い人が利用できるスロープを設置したい。
- 駐車場は雨が降るとぬかるんで車内、室内など、そのまま入ってくる人も多いため汚れてしまう。コンクリートの舗装をして汚れを緩和し、快適な空間を作りたい。

### 実施内容

駐車スペースの4割ほどをコンクリート舗装にした。  
空きスペースを利用して車いすにも対応し、足の弱った人でも無理なく通れるスロープを設置した。  
フェンスを新しくして手すりも設置し、歩きやすくする。玄関スペースを従来の2倍の広さにした。



### 得られた効果

駐車スペースをコンクリートにすることで雨の日の「泥だらけ」状態が解消し、車内の座席に平気で土足のまま上がってくる利用者がいてもそんなに汚れが目立たなくなった。また水はけもよくなり、玄関周りも快適に過ごせるようになった。

玄関周りを広く拡張したことにより、靴を着脱する際の混雑からくる混乱が無くなった。

スロープの通路に手すりまで設置できたため、安全に通行できるようになった。

### 今後の課題

弱小事業所ですのでハード面での改善がなかなか進みませんが、今後は車いす利用の利用者さんも通所される可能性もあるので室内のバリアフリーにも取り組んでいきたいと思っております。

# 社会福祉法人ひびき福祉会

<http://hibiki-hukushi.com/>

【所在地】 兵庫県姫路市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、  
難病患者

【日常の活動】

就労継続支援B型・生活介護・居宅介護事業・共同生活援助事業・相談支援事業

## 「就労トイレ改修工事」

【助成額】 64万円

### 実施目的

トイレの便座、床部分の改修工事を行う事によりご利用者様の危険の回避と、清潔かつ快適に使っていただけるようにするため実施いたしました。



### 実施内容

施設2階のトイレの床部分、便器改修工事

床部分の老朽化のため臭いや染みなどがついており、不衛生な状態であったので、床部分をフローリングの床に変える掃除の張替えを行った。便器は便器部分がぐらつき、座った際に便座がずれて体の不自由なご利用者様が転倒される恐れがあり、新しく便座を取り付ける事になった。

### 得られた効果

フローリングの床にした事により掃除なども手軽に行えるようになり、衛生的にもきれいな状態を保つ事が出来て、ご利用者様も快適に使われている。

便器を変更したことにより転倒の恐れも無くなり、ご利用者様も安心して利用できるようになった。介護者側も気兼ねすることなく介護をする事が出来ている。

### 今後の課題

建物や備品などの老朽化により、様々な場所に修繕などが必要になってくる。その他にも多様なご利用者さまのニーズに寄り添うため、必要な備品や環境の改善が必要になってくる。ご利用者様の迷惑にならず快適に過ごしていただくため、建物の修繕や環境の改善などを検討していかなければならない。



# 阪神・障害者人権ネットワーク

【所在地】 兵庫県宝塚市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

就労継続支援B型事業、生活介護事業、共同生活援助事業、地域活動支援センター事業を展開している。障害児・者や家族、関係者や地域住民の交流事業（月1回のレクリエーション企画）、障害児・者の福祉に関する情報提供事業（不定期の通信発行）

## 「トイレ及び洗面台整備事業」

【助成額】 38万円

### 実施目的

これまで借りていたマンションの貸主から昨年10月に取り壊しのための立ち退きを迫られ、急遽2019年1月に移転しました。資金不足で最低限の改装でした。移転後、元々あったトイレと洗面台をいただいたところ、非常に古いタイプのもので、利用者の使い勝手が悪く、常に汚れたり詰まったりと不衛生な状態が続いていました。この状況を改善し、利用者に快適に過ごしていただくため実施しました。

### 実施内容

- 既存のトイレを取り外し、新しいトイレを設置しました。
- 既存の洗面台を取り外し、新しい洗面台を設置しました。
- ジェットタオルを新しく壁に設置しました。

### 得られた効果

- 既存のトイレに比べて新しく設置したトイレは、便座の位置が上がったため、体格のいい利用者でも尿が飛び散ることが減り、常に汚れている状態がなくなり、衛生面で劇的に改善されました。
- 節水タイプのトイレですが、十分に流れるので、詰まらなくなりました。
- 元々設置されていた洗面台は水量が少なく、手を洗うのに時間がかかりましたが、新しい洗面台が入ることで自動的に適量の水が出てくれるので、手洗いがとてもスムーズになり、蛇口を開けっ放しにすることもなくなり、水道代も節約できています。
- ジェットタオルを設置することで、手洗いも衛生的に行うことができます。

### 今後の課題

- 利用者の保護者が高齢になるにともない、保護者に頼らずに、できるだけ今までのように住み慣れた地域で暮らしていくためにはどうしていけばいいのかが、具体的に準備を進めていくことが緊急の課題となっています。グループホームにしても、一人暮らしにしても、資金不足、人手不足であることに変わりはなく、答えのなかなか出ない課題に向き合う日々です。
- 団体の今後としては、就労継続支援B型事業所として維持継続するには少しずつメンバーを増やしていく必要がありますが、日中活動する場所としては現在の場所は手狭であり、また現メンバーの障害程度もあり、これ以上増やすと丁寧な支援ができなくなる可能性が十分あり、現状維持が精一杯の状況です。



# 特定非営利活動法人リカバリーポイント

<http://tottoridarc.com/>

【所在地】 鳥取県岩美町

【対象者】 精神障がい者、薬物・アルコール依存症

【日常の活動】

薬物依存症リハビリ施設助成モデル事業-薬物依存症等の回復に向けた、グループによるグループセラピー、スポーツ、レクリエーション活動等のサービスまたは、創作活動、生産活動の機会の提供及び社会との交流の場を提供し、薬物依存症者の社会復帰の促進を図る事業。

## 「老朽化による設備の改修事業」

【助成額】 86万円

### 実施目的

岡山県下で唯一の依存症回復支援施設として平成21年に開設し10年間運営をしてきた。しかし支援を提供する建物および設備の老朽化が進み、安全かつ安心できる環境下での持続的プログラムの実施を提供することに支障をきたす事態となっている。そのため老朽化の進んでいる箇所の改修工事を早急を実施し、利用者が安定的な精神状態の中で効果的な回復を図るための基盤づくりをすることを目的とする。

### 実施内容

ベランダ改修工事、台所床改修工事、トイレ・洗面台・台所・手洗い場の撤去及び解体、トイレ・洗面台設置、天井撤去、ベランダ防水加工、勝手口(非常口)ドア交換

### 得られた効果

- 2階ベランダ損傷部分の改修によって雨水による浸水が無くなり、また高い水準の防水処理を行う事で、今後の施設の老朽化を防ぐことが出来た。また壁面及び床面の補強をすることで安心してベランダを利用することが出来た。
- トイレ改修をしたことによって非衛生的だった壁面や床の改善が見られた。また破損していた便器の交換をすることによって誰もが使いやすい快適な共用トイレ空間になった。
- 洗面所改修をしたことによって漏水していた箇所の改善及び洗面台の再設置をしたことで衛生的な場所が確保された。これによって利用者が安心して快適に利用できるようになった。
- 避難経路の勝手口及び台所床面を改修したことによって今まで封鎖していた非常時用の経路が確保された。これにより火災や地震等不測の事態でも安全に利用者を避難させることが出来るようになった。
- ロビーの改修をしたことによって天井の雨漏り防水処理を行う事で不快感が一掃され安心して日常生活が出来るようになった。また玄関入口開口部を撤去したことによって、かがむことなくスムーズに施設内外の往来が出来るようになった。これにより日常生活を快適、安全に過ごすことが出来る施設運営の場が確保できることとなった。

## 今後の課題

昨今の薬物事犯に関するニュースのみがクローズアップされ、薬物依存症当事者に厳罰とスティグマ(烙印)を付加させ回復の糸口を失くしてしまうような現状があります。当事者の苦しみをいち早く気づき、寄り添い確実に回復出来る場として岡山県下で唯一の依存症回復支援として活動し続ける使命があります。そのためにも今後も岡山県内外に対し、これまで以上に薬物依存症予防並びに回復に関する啓発活動を行い、いまだに孤立し苦しんでいる当事者に時間をかけても確実に回復できる場がある事をお知らせし、当事者同士の共同生活の中で回復を手助けできるサポート体制の拡充と充実を図る必要があります。



# 特定非営利活動法人福老

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、  
発達障がい者

【日常の活動】

■訪問介護 ■就労継続支援B型 ■地域支援事業

## 「就労継続支援B型福々堂の商品販売店舗工事」

【助成額】 100万円

### 実施目的

就労継続支援B型事業の作業内容が焼き鳥の製造と販売であり、その販売店舗がテントであった為、衛生面等の苦勞があり店舗新築工事を行い、販売売上の増益に繋げること。

### 実施内容

事業所敷地内に以前あったテント式の店舗の位置に基礎工事を行い小屋式の店舗新築工事を行った。  
看板取り付け、水道工事、保健所の許可申請も行った。  
新築店舗での営業再開は12/11から始まった。



### 得られた効果

テント式店舗の時には毎日組み立てたり畳んだりしていた為、準備片づけの手間が省け、職員の休憩時間が持てるようになり福利厚生にも繋がりました。暑さ寒さ雨、風を防ぐ事ができ、どの利用者様でも販売作業に就くことができるようになりました。大きな看板が付き商品渡し口の向きが道路に面した方向に変わった事でお客様が入りやすい印象に変わり新規のお客様が増えました。常連のお客様から「おめでとう」「きれいになったね」「がんばってるね」などのお言葉を頂き地域の方々に喜んで頂けました。リニューアルオープンの日を利用者様と職員が喜んで配りました。作業、販売促進意欲が職員、利用者様ともに向上することができました。

今後の課題 売上を上げる為に新商品の開発をすること

# 一般社団法人岡山障害者地域生活支援センター

【所在地】 岡山県総社市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、身体障がい者、  
難病患者

【日常の活動】

事業所で取り組むすべての事業に障がいを持たれた方々がその障がい特性に応じた作業をしています。

大きく分けて農業と軽作業と施設外就労の3つの事業を行なっています。

農業では周年のミニトマトの栽培を軸に、その他旬の野菜を6反程度栽培しております。

また、軽作業では自動車のサンバイザーに付いてあるミラーの組み立てや水道メーターのリサイクルをしており、施設外就労では電気部品工場にてネジの取付け、検査、塗装補助などの仕事を請け負っています。

## 「ビニールハウスのビニール張り替え工事」

【助成額】 70万円

### 実施目的

野菜栽培で使用している既設のビニールハウスに経年劣化などによる破れ、剥がれ、曇りが生じています。それらの修復はその都度おこなってききましたが、補修の程度が当事業所の対応のレベルを超えており、専門業者による修繕が必要となりました。ハウスの修繕を行わないまま放置しますと、ハウス内の温度管理が難しく、作物の生育が悪くなり、収穫量が大幅に減ることになります。結果、売上高が減少し利用者さんの賃金向上に悪影響を及ぼすことが予想されるため、作物の安定供給を続けるために本事業が必要不可欠と考えております。

### 実施内容

- 3連棟のビニールハウスの天井を除いた横面をすべて張り替え
- 単棟のビニールハウスの天井と北面を除いた横面をすべて張り替え

### 得られた効果

- 破れている部分からの隙間風などがなくなり、作業していても暖かいですし、保温効果が高まったことで野菜の成長が早くなっているように感じます。
- また、朝夕は横から陽が差しますので、ビニールの透明度が増したことで、その陽も野菜の成長を促進してくれています。
- ビニールが破れていると台風の時には、その隙間から風が入り込みハウスを壊してしまうおそれがありますが、その可能性が低くなったことで安心できます。
- 全体的にハウス内が明るくなったことで、作業をしている人たちも気分が良いと言ってくれています。

■農業の売上(利益)を向上させること

(自社事業の力をつけ、他に依存し過ぎない経営をし、職員も利用者も「働きがい」のある職場にするため)

その手段として、

→栽培技術を身に付ける

→設備投資をする

①ハウスの内張りの設置 → 夏は遮光、冬は保温のため

②ハウス内の循環扇の設置 → 夏の熱気の循環と冬の暖気の循環のため

③OT(温度、湿度変化によるハウスの自動開閉)の導入

→天候の急な変化の時や休日のハウスの開け閉めのため

●いずれも作物の質と量、そして職場環境の向上のために必要であると考えています。



# 特定非営利活動法人ライフデザイン

<http://palja-okayama.wix.com/palja>

【所在地】 岡山県総社市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

- 自立訓練（生活訓練）事業 ■就労移行支援事業（令和2年4月開設予定）
- 保護者や福祉・教育関係者を対象にした学習会や座談会
- 福祉型専攻科Paljaの体験会

## 「事業所移転に伴う作業と環境整備」

【助成額】 86万円

### 実施目的

開所後より、通所時に岡山駅からの乗り換えが発生する地域からは乗り換えの負担等から利用を断念した方も多くいました。岡山市街地に移転することによって、電車で通う利用者にとっては乗り換えの必要がなくなり通いやすくなります。倉敷総社地域に限定されず、岡山県内全域からの通所が可能となるため、今まで希望に添えなかったニーズを満たしていくことができ、利用者数の増加も見込むことができます。利用者に対しては、負担なく事業所移転をスムーズに行うことを重要視し、当事業所への相談者や見学者に対しては、安心できる心地良い空間の中で相談ができること、さらに多様化する利用者のニーズに対応するためにも、しっかりと環境を整えて、より質の高い支援をしていくことを目的としています。

### 実施内容

事業所移転のために必要な旧事業所の修繕と引越し作業

旧事業所が古民家で壁等が薄く、故意ではない行動で壁に穴が開いているため、壁の修繕

新事業所への大型家具ロッカー、エアコン、看板の移動・設置

新事業所へ環境整備

新事業所に適した消防設備と階段の手すりの設置



### 得られた効果

旧事業所の壁の修理は完璧に仕上がり、移転に伴う法律上必要な消防設備が整いました。階段の手すりの設置により、利用者や見学者が安全に昇降することができ、大型家具ロッカー、エアコンの移動と新事業所2階への設置で、皆が快適に過ごすことができている。看板の移動と駐車場への設置で、大きな宣伝効果を果たしています。助成金をいただき、期限内に必要な環境を整えることができ、新事業所を予定通り開所、運営することができました。利用者へストレスを与えることもなく、スムーズに通所することができています。岡山市街地で活動の幅を広げながら、仲間と共に青春を謳歌し、明るく楽しい新生活を送っています。移転したことで、より一層青年達の大きな成長を感じることができています。

今後の課題

今後増えると見込まれる利用者に対して、必要と考えられる備品の購入、パソコンの台数を増やすことや多様化する障害に対応できるような高機能な印刷機・プリンターの購入を検討していきたいと思っておりますが、資金不足に課題を感じています。



# 特定非営利活動法人風の家

<http://kazenoie.jp/>

【所在地】 広島市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

- 地域活動支援センターⅢ型事業
- 広島市一時生活支援事業
- 緊急的住居確保
- 自立支援対策における登録事業者
- 広島家庭裁判所の補導委託先
- 生活困窮者自立相談支援事業
- 刑余者に対する任意での宿所や居場所の提供
- 法制度の狭間いる身体・知的・精神障がい者のための作業所や居場所の提供
- 相談を必要とする人達の為の臨床心理士による相談業務
- 軽度の身体・知的・精神障害を持つ刑余者の食事・服薬・金銭管理

## 「軽度の知的及び精神障がいを持つ刑余者宿泊施設の厨房の改修」

【助成額】 80万円

### 実施目的

現在の厨房設備はガステーブルと調理台の間にシンクがあるため、調理時シンクの上になな板を置き調理している状況で作業性が悪く、またシンクは浅いため大きな鍋等が洗い難い。またガス台には家庭用ガステーブルしか置けず火力が弱く煮炊きに時間が掛かる。さらに大きな鍋を置くと一方の火口は使えなくなり、壁との距離が近くなるため火災の危険性が高まっている。これらの問題を解決するため、新たな厨房設備は奥行きが広いものを使い、ガステーブルとシンクの間に調理台を配置した。業務用のシンクは深さがあるので大きな鍋等が洗い易くなった。そして火力が強いガステーブルを90cm幅のコンロ台に置くため煮炊きの時間が短縮できると同時に壁からの距離が取れ火災の危険性が低くなった。作業台をシンクとコンロの間に置くため、調理時の作業性の向上が図れる。

### 実施内容

厨房は4階建ビルの4階にある食堂の一部に併設している。改装前の厨房設備の配置は、右からガステーブル、シンク、調理台、シンクであった。工事は、火力の強いガスコンロを置くため1番右のガス台の幅を30cm広くし90cmのものを使用した。その左に幅60cmの作業台、幅75cm深さ80cmのシンクを古いシンクの間を設置した。レンジフードはガスコンロに合わせ90cm幅の物に取り換え、レンジフードの左にある吊戸棚は左に30cm移動し、蛇口もシンクの移動に合わせて移動した。

### 得られた効果

事業実施による効果の第一は、ガス台の幅が広がったので、大きい鍋が一度に2つ掛けられること、コンロの火力が強くなったので、短時間で沸騰することが出来るようになり、時間短縮になり、また麺類をゆでる際短時間で茹でられるので麺にコシが出るようになり、麺類の料理の時は特に喜ばれている。また、レンジフードが大きくなり、音が静かで、吸引量も増しているの室内に匂いが籠ることも少なくなっている。以前はシンクがガスコンロのすぐ左にあったため、シンクの上になな板を載せ不安定であったが調理していた。現在はガスコンロのすぐ左に作業台を設置したので、調理は作業台の上で安全にできるようになった。



## 今後の課題

風の家の宿泊施設は、3階に個室が3室と2人部屋が2室、4階に6人部屋が1室あるが、相部屋は2段ベッドが主体となっている。最近の刑務所は、個室が増え空調も完備されていると聞いている。そのためか風の家への入居希望者が、相部屋であることを知ると断られたり、風の家に来て相部屋であることを知り、入居を断念する人もいる。プライバシーの改善にも繋がる相部屋解消を目指し、2017年から助成金獲得のため、色々な助成団体に応募しているが、まだ結果が出ていないので、今後も応募を続ける予定である。



# 特定非営利活動法人農楽郷ここ・カラダ

【所在地】 青森県十和田市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

障がい者の方々に就労の機会を提供するため、農業を通じて支援しています。地域で安定した生活ができるよう、平均月額工賃7万円を目指しています。現在は、にんにく生産量日本一の十和田市において、にんにく生産に鋭意取り組んでいます。

## 「障がい者就労支援に係る機器整備」

【助成額】 46万円

### 実施目的

蓄圧エアーによるにんにく皮むき作業効率向上のための高出力コンプレッサーの導入。  
それによる商品にんにく生産数増加、品質向上による利用者工賃の向上。

### 実施内容

事業所敷地内ビニールハウス内部へ設営されたにんにく皮むき設備への高出力コンプレッサー接続。

又、にんにく皮むき設備にはペダル式を採用、手作りの可変式ワンステップペダルにより軽い力で圧縮エアーを手元に噴出することができ、四肢に障がいのある利用者も作業に取り組むことが出来る。本事業により様々な障がいを持つ利用者が、高出力コンプレッサーの恩恵を受けられた。



### 得られた効果

従来の小さなコンプレッサーでは、二人でエアーによるにんにく皮むきを行うとコンプレッサー吐出圧が下がり、作業が滞り手作業での皮むきを余儀なくされていました。

しかし、高出力コンプレッサーの導入により、四人でのエアーによるにんにく皮むきを行っても吐出圧が下がる事は無く、作業効率が大幅に上昇しました。

又、手作業でにんにくの皮むきをすると、細やかな土を取り除く事が不可能であった状態から、すべてのにんにくをエアーでの皮むきに充てる事が出来るようになり、品質の安定化、および品質の向上を可能にする事が出来ました。

### 今後の課題

当法人の最大の目標は、利用者が安心安定した生活を送れるようになることです。そのために大前提になるのは、利用者の皆さんが続けて仕事に来てくれることです。様々な障がいと向き合っている利用者の皆さんが、安心して就労に来られる場所を提供していかなければなりません。当法人の主要作物であるにんにくの収穫量を伸ばし、利用者の皆さんのそれぞれの思いに柔軟に応えながら、売り上げを伸ばしていけるような態勢作りを進めていくことが課題となっております。

# 社会福祉法人茨城いのちの電話

<http://www.iid.or.jp>

【所在地】 茨城県つくば市

【対象者】 精神障がい者

【日常の活動】

- 厚生労働省自殺予防補助事業として、毎月10日8時から翌8時までフリーダイヤルで相談電話を受信。かけ手に電話料金の負担をかけずに相談電話を受ける。2018年度は自殺傾向の電話は、2012件で全体の9.9%だった。(総受信件数20362件)
- 自殺予防啓発のため、入場無料の公開講座を実施。2018年度は12月埼玉医科大学国際医療センターの大西秀樹先生の講演、2月には小説家田口ランディ氏の講演を行ない、自殺予防を訴えた。電話相談事業(365日24時間、相談電話をボランティアの相談員が受信・ボランティア相談員の研修)ボランティア電話相談員養成事業、茨城県自殺対策連絡協議会、モニタリング事業

## 「相談業務を行うにあたって、相談員研修用のパソコンの購入」

【助成額】 34万円

### 実施目的

PCを必要とする場合があり、今回研修時使用のPC購入にご助成いただきました。相談員の資質向上を目的とします。

### 実施内容

<相談員研修>

つくば研修室(筑波)グループ研修

10月 9、12、15、19、21、25、26日

11月 10、13、16、18、19、21、23日

茨城県総合福祉会館(水戸)グループ研修

10月 6、9、10、15日

11月 3、5、13、14、19日

<養成講座研修>

カスミつくばセンター 講義 10月19日

筑波銀行研究学園副都心支店 講義 11月16日

つくば研修室(つくば) スーパービジョン 11月14、17、20日

茨城県総合福祉会館(水戸) スーパービジョン 11月14、20日



### 得られた効果

録音を使った研修を行い、自分自身の聴き方および相談技術の向上をはかるだけでなく、相談員のメンタル面でのサポートにも役立っています。

また、講義のために、パワーポイントで講義資料を受けるなど幅広く活用させていただき、スムーズに研修を進めることができています。

### 今後の課題

電話相談は、現在常時回線はパンク状態です。相談員数を増やすこと、また効率のよい聴き方が求められています。相談員数を増やすことも必要としています。

また、現在こちらでは若者からの相談電話が少ないという現状があります。若年層(中・高生)や若者は、電話という媒体に対して敷居が高い様です。ほとんどとっていいほどの若者はSNS(特にLINE)が会話ツールであることを踏まえ、これからは電話とともにSNS相談事業の実施が不可欠と考え、今後取り組んでいく課題としております。

# 点訳グループ「桐」

【所在地】 栃木県鹿沼市

【対象者】 身体障がい者

【日常の活動】

- 1998年5月より「あなたと議会」の点訳を始め、以後年4回点字版を作成してきましたが、2003年12月に鹿沼市役所からの委託事業となりました。選挙などのときには、臨時版が発行されますが、それも点字版を作成しています。
- 1994年に学校から依頼され、中学校で点字指導を始めました。小学4年生の教科書に点字が取り上げられ、それに伴い鹿沼市教育委員会から依頼され、鹿沼市内のほぼ全部の小学校で、1時間～2時間の点字指導を実施しています。
- 鹿沼市社会福祉協議会からボランティア活動援助金を受け、年2回視覚障がい者との交流会を実施しています。
- 2018年から「かぬま社協だより」の点字版を年5回作成しています。
- 視覚障がい者から依頼された図書の点訳本を作成しています。
- 鹿沼市立図書館や、栃木県立盲学校に点訳本を届けるため、点訳・校正活動をしています。これまでに200冊以上の点訳本を納本しました。
- 鹿沼市社会福祉協議会・鹿沼市ボランティア連絡協議会が主催する種々のボランティア活動に参加・協力をしています。

## 「点字両面同時プリンタ「ESA919」の購入」

【助成額】 99万円

### 実施目的

広報誌や本などを点訳・印刷し、1日でも早く視覚障がい者の方たちに届け、社会参加がスムーズに行えるようにしたい。

### 実施内容

2019年12月19日に点字両面同時プリンタを購入し、活動の拠点としている鹿沼市立図書館に設置しました。使用方法などの説明を受け12月25日発行の「あなたと議会」207号を点訳し、2020年1月に印刷を実施いたしました。今後は、年5回発行される「あなたと議会」・「社協だより」の点訳版作成にこのプリンタが活躍してくれるものと思います。

### 得られた効果

「あなたと議会」「社協だより」には多くの情報が掲載されています。今回の両面同時プリンタの使用により、視覚障がい者の方たちによりスピーディーに情報を届けることができます。それが生活に反映され、豊かな日常が送れるようになると思われます。また、希望される本を点訳した後の印刷がスムーズになり早く読書を楽しんでいただけることと思います。



今後の課題

- 毎年鹿沼市社会福祉協議会主催の点字講習会が実施されていますが、受講生が少ないのが課題です。
- 点訳をするためには点字に関する知識を深めなければなりません。グループの一人ひとりが点訳の力をつけられるよう勉強を続けていかなければならないと思っています。



# 特定非営利活動法人ヒールアップハウス

<https://healuphouse.org>

【所在地】 埼玉県川口市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、  
発達障がい者

【日常の活動】

「晴れ晴れ」就労継続支援B型 平成20年 4月1日開所 パン・焼菓子の製造販売

「にちにち」就労継続支援B型 平成30年11月1日開所 革製品、木工製品、紙製品の製造販売

「のびのび」地域活動支援センターⅢ型 月間プログラムにより活動

## 「カカオ豆からチョコレート製造のためのテンパリング機械の導入」

【助成額】 55万円

### 実施目的

チョコレートのテンパリングの機械を導入して、カカオ豆からのチョコレート製造を障害者の方たちだけで実現すること。

### 実施内容

晴れ晴れ施設内にテンパリングの機械を導入し、設置する。

### 得られた効果

カカオ豆からチョコレートの製造は、製造行程の中で、テンパリング工程が難しく、全行程を障害のある方たちで作業することが難しかった。しかし、機械を導入後は、カカオ豆の焙煎、皮むき、コンチング、テンパリング、包装までの全工程を見守りだけで行うことができるようになりました。

そのことで、カカオ豆という材料からチョコレートができることで「すごい！ できる！」と言われ、達成感を感じることができるようになったこと。また、分業により自分の得意なことができるようになり、自分で準備ができなかった方も準備をすることができ、役割をもって仕事ができるようになりました。行程が単一化されたことにより、次は何をするのかという不安を感じる障害者の方の確認行為がなくなりました。そのことで、周囲の方も落ち着いて仕事ができるようになりました。

また、チョコレートの製造が障害のある方たちでできるようになり、コーヒー豆屋さんなどから材料の提供を受け、チョコレートの製造依頼を受けることができるようになりました。

### 今後の課題

今後は、チョコレートの製造ができるようになったことで、販路拡大が課題。さらに、受注へ対応するための生産体制を整えていかなければいけない。

販路拡大については、企業のオリジナルチョコレートの販売などの受注販売を広げていくためにコーヒー豆屋さんやカフェなどへの営業を行っている。販路が広がると、生産体制が整わなくなってしまうため、バレンタインに向けて、徐々に製造数を増やしていきたい。

また、障害のある方が夏も継続してカカオ豆の作業を希望されると思われるため、夏にはチョコレートを冷やして食べることができるような焼菓子の試作も行っていかなければいけない。



# 特定非営利活動法人千葉盲ろう者友の会

<http://www015.upp.so-net.ne.jp/chibadb/>

【所在地】 千葉県千葉市

【対象者】 盲ろう者

【日常の活動】

千葉県盲ろう者向け通訳・介助員養成事業(千葉県の委託事業)  
千葉県盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業(〃)  
千葉県盲ろう者向け生活訓練事業(2019年度より 〃)  
盲ろう者実態調査(2019年千葉市の委託事業)  
生活訓練事業(助成金による自主事業、コミュニケーション勉強会、ユューサークル等)  
相談事業  
通訳・介助者の育成事業(コミュニケーション勉強会、ユューサークル等)  
社会啓発事業(盲ろう者掘り起し事業、行政職員等への研修実施等)  
交流促進事業(交流会開催、会報発行、地域の福祉まつり等への参加協力等)

## 「盲ろう者及び支援者の災害時用ビブス作成」

【助成額】 13万円

### 実施目的

盲ろう者が災害に遭った時に適切な支援を受けるため、ビブスを身につけてもらい、「見えない・聞こえない」という重複の障がいがあることを理解してもらう。まだまだ認知されたい「盲ろう者」という存在を知ってもらうため、避難場所など集団の場所におけるアピールを行う。自分の声で発信できなくても、このビブスを着用することで、周囲の理解を得られる。

### 実施内容

盲ろう者及び支援者の災害時用ビブスの作成及び配布。1月28日までに25名に配布終了。

まだ配布できていない人に対しては、当初は郵送にて配布予定だったが、ビブスの重要性、木口福祉財団からの助成金で作成できたことを含めて周知させながら手配りで届ける予定。このビブスは、ヘルプカードとともに常に持ち歩いて、外出中にもし災害に遭った場合には、すぐに着用して自分に適した支援が提供されるようにしてくださいと伝えて渡している。

### 得られた効果

- ある大学が障害者向けの避難所運営のイベントを開催した時に、一人の盲ろう者が参加。このビブスを着用して参加したところ、学生から「非常にわかりやすかった」「支援しやすかった」との感想を頂いたとのこと。
- 視覚障害者施設に入所している盲ろう者で、定期的に避難訓練を行っている場所でこのビブスを着用して参加。その際に周囲の人たちから「とても分かりやすくて、いいね!」と称賛されたとのこと。本人が嬉しそうに話してくれました。まだ完全には認知されていない盲ろう者という存在を、こういう形で自然に受け入れていただけるようになると良いと思う。



## 今後の課題

千葉盲ろう者友の会の運営は、会費と寄付金(定期的に行うバザーでの売上金や一般の寄付金等)で行っており、慢性的に資金が不足している状況。

友の会として資産を増やすためには、「盲ろう者向け同行援護事業」を行う事業所の立ち上げが必須だが、立ち上げるまでの資金の準備、また人材も不足しているため、事業所はまだまだ先になりそう。

盲ろう者に特化した支援センターについても、毎年県への要望を続けているが未だ達成されず。

盲ろう者の皆さん全員が、明るく楽しく社会参加ができるようにしていきたい。

# 特定非営利活動法人アール・ド・ヴィーヴル

<http://artdevivre-odawara.jp>

【所在地】 神奈川県小田原市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者等

【日常の活動】

## 1. 就労継続支援B型事業

- ①創作活動 ②絵画販売とアートリース ③著作物の二次使用 ④デザイン名刺販売 ⑤オリジナルグッズ販売
- ⑥ライブペイント出演 ⑦イベント出店販売 ⑧給食調理の補助 ⑨ブルーベリー園の管理
- ⑩美術鑑賞等自己開発 ⑪展覧会主催と展示請負

## 2. 障害のある子どもから大人を対象にワークショップを開催。

- ①アートワークショップ(月2回) ②ヨガワークショップ(月2回) ③英会話(月2回)
- ④織物ワークショップ(月2回)⑤フラダンスレッスン(月1回)

## 3. ワークショップ

- ①料理ラボ(2か月に1回) ②陶芸ワークショップ(2か月に1回) ③ダンスワークショップ(3ヶ月に1回)

## 4. 美術館へ美術鑑賞、音楽鑑賞、バレエ舞台鑑賞(年1~2回)

## 5. 映画上映会とシンポジウム主催(年1回) 6. 展覧会主催「アール・ド・ヴィーヴル展」(年に2回)

## 「車椅子使用の利用者さんの送迎と余暇活動利用のための車輛購入」

【助成額】100万円

### 実施目的

就労支援B型事業所アール・ド・ヴィーヴルを利用されている障がいのある方の中に、車椅子を使用されている利用者がいらっしゃいます。同乗できる福祉車両が無く、外出することができず我慢することが多かったため。

### 実施内容

車いす利用者に乗せられる福祉車両(ホンダ N-BOX)の購入。  
車椅子を使用されている利用者さんが、外出する際に使用できる車両が届いたことで、みんなで一緒に外出できるようになった。

### 得られた効果

今まで車椅子のご利用者の方がいらっしゃる日は、外出は控えていた。  
福祉車両が届いてからは、ご利用者様より外出のリクエストが増えて、  
絵画作品がリース展示されている企業へも同行し、ご自身が制作された作品が飾られているのを直接見ることができた。また、リース先の社員の皆さんとの交流も実現している。

### 今後の課題

最重度の障害者を受け入れ創作活動ができる生活介護施設の新設を計画。現在、特別支援学校より卒業生から利用希望があり待望されている状況。しかし、現在の運営状況から資金難のため、新たな助成にチャレンジすることを検討する必要がある。土地は借地権 30 年の確約書を交わしている。就労 B 型の利用者さんと、生活介護の利用者さんがともに活動できるギャラリーカフェを作り、地域へ開かれた福祉施設を目指したいと考えている。令和 3 年度春に開所予定。



# 特定非営利活動法人ピアファーム

<http://www.peerfarm.jp>

【所在地】 福井県あわら市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

農業に特化した就労継続支援B型事業所「ピアファーム」の運営

就労継続支援 B 型事業所「産直市場ピアファーム」の運営

## 「多様な課題をもつ人たちが果樹産地を担う」

【助成額】 100万円

### 実施目的

耕作放棄地を再生して耕作農地を維持するために必要な乗用草刈機と有機たい肥等を散布する農機具の助成を申請させて戴きました。農業に参入した就労継続B型事業所としてこの2台の設備を導入することで、農作業を安全に進め効率化を図りながら、農作業における事故や怪我の防止対策を目的としています。農業に参入することでこれまでの担い手不足の解消、ナシ栽培等の地域特産の継承を図り地域創生の一翼を担っていきます。

### 実施内容

現在 6.6ha の農地でナシ、ブドウ、野菜等の栽培、「あたりまえに さりげなく はたらく」ことをテーマに働く人にやさしい環境にやさしい循環型農業に取り組んでいます。導入した農業設備は次のように使っております。

<カタキタ自走コンポキャスト SC-210SK>

たい肥や大豆屑等を散布等の有機農業をするのに活躍をしてくれます。循環型と有機を大切に働く人や環境に優しい農業をするには大切な農業設備となっています。

<アテックス R9824A>

3月から11月までフルに稼働している草刈りに大変必要な農業機械になります。約6haを毎月2回程刈りますので、年間100ha ことになり欠くことが農業設備機器になっています。

### 得られた効果

この農業設備を導入した成果として次ことが挙げられる。

カタキタ自走コンポキャスト SC-210SK

これまで背負い式手動でたい肥や土壌改良剤を散布していましたが、この設備機器が導入できたことで効率よく、ムラなく畑に撒くことができるようになりました。



## アテックス乗用草刈り機 R9824A

平成 22 年に導入した乗用草刈り機がフルに活用して老朽化したため、新たな設備機器として導入しました。ブドウやナシ園を4ha、3月から20日に一度刈るため、活躍してくれます。

### 今後の課題

多様な課題を持つ方の利用が多くなっています。そうした方の工賃向上を実現して所得保障につなげるように、支援の質と同時に品質向上をめざしてアジアGAPの認証を受けました。

農福連携を地域社会の共生の一つとして担えるように法人として今後取り組んでいきます。



# 社会福祉法人あすなろの会

【所在地】 山梨県都留市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

多機能型事業所(就労継続支援B型、生活介護、日中一時支援事業)

作業内容はうどん製麺製造販売、洋菓子と菓子の製造販売、農園芸、雑務を実施

余暇活動ではウォーキング、ワークショップ、陶芸、習字、ヒップホップや笑いヨガダンスほか

## 「ひのき間伐材活用と地域連携で里山を守る障害者の木工品づくり」

【助成額】 75万円

### 実施目的

高齢者住宅内の食堂運営受託をきっかけに、食堂とコミュニティスペースを活用して、多様な地域の方々との交流を広げ、理解を深める場とすること。また、そこから利用者の工賃につながる良質な木工品を制作できるようにすることの2点が本事業の目的です。

### 実施内容

木工ワークショップを次のように6回開催しました(間伐材の下加工は各回開催前に2日間実施)

08月31日(土) 10時30分～15時(会場:みとおし) 内容:「ブローチ・ペンダント・カード立ての制作」

11月05日(火) 10時30分～15時(会場:みとおし) 内容:「千鳥うちわ持ち手の磨き」

11月30日(土) 10時30分～15時(会場:ゆいま～る都留) 内容:「千鳥うちわ持ち手・トレーの磨き」

01月11日(土) 10時30分～15時(会場:ゆいま～る都留)

内容:「千鳥うちわ持ち手・トレー・ウッドスライス磨き」

02月08日(土) 10時30分～15時(会場:みとおし) 内容:「ウッドスライスの磨き」

03月28日(土) 10時30分～15時(会場:みとおし)

内容:「ウッドスライスの磨きと色塗り、薪割り練習」

### 得られた効果

(1) 本事業助成金により、木工加工用機材を調達することができ、これまでできなかった間伐材の下加工がスムーズにできるようになりました。講師と創作担当職員と連携して、担当職員もノウハウを身につけることができたので、現在は平日の日中活動時間の中で、木工の取り組みができるようになりました。

(2) 利用者の方々が様々な木工アイテムの磨きと、ヒートペン(焼き付け)まで体験することができ、磨きの技術は回を重ねるごとに上達し、土曜開所も楽しみにするようになりました。



(3)「江戸仕立て都うちわ千鳥型(通称:千鳥うちわ)」の職人さんから、杉材の持ち手磨きの注文を受けるという貴重な機会を頂き、治具を使いながら試行錯誤しましたが、職人技術にまで高めるといふ本格的な体験をしました。目標であった工賃にもつながり、利用者の方々が磨いた持ち手の千鳥うちわ作品は、光栄なことに2020年夏、東京都内の百貨店に並ぶ予定です。

(4)「ウッドスライス」という間伐材の輪切りパーツの磨きを数百個磨き、直径70センチ程度の「月」と「星」の形に敷き詰めた2点の大作を制作し、「コレド日本橋(東京都中央区)」という都心の商業施設の販売会に出品することができました。

(5) 上記のような体験と成果を通して、利用者の方々にも木工磨きと制作によって、技術向上と合わせ、やりがいと達成感、自信と誇りを持つことにつながっています。



#### 今後の課題

貴重な機会や注文も頂きましたが、単発のお仕事だったこともあり、今後も引き続き、磨き技術を活かした継続仕事も見つけていくことが課題です。

# 社会福祉法人楽山・杜の会

<http://yaromaika.jp/>

【所在地】 岐阜県海津市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

当社は「草餅」の製造販売と「養鶏」による卵とプリンの販売を主力としています。「草餅」は当社の主力製品で、製造に15人、配達に5人程度従事しています。また土日祝日は販売で、3~5人が従事しています。「養鶏」には5人程度が従事しています。「卵販売」はパック詰めして販売のほか、プリンの製造もおこなっています。「古本のインターネット販売」は古本を寄贈いただき、インターネットで販売しています。併せて、インターネットを通じた下請け仕事を行っています。「軽作業」は体調が万全でない方のために、軽作業を用意しています。紙バッグの制作やバリ取り作業です。

## 「営業用車両（運搬用車両も兼ねる）購入」

【助成額】 100万円

### 実施目的

草餅等の主力製品の販売場所が増え、13カ所となっています。売上も月5百万円程度となり、前年比30%以上伸びています。「草餅」は消費期限が短いことから、配達に集中し配達ルートに対しての運搬車両が不足してきています。また、現在配達車として6台使用の内、5年以上経過が2台、10年以上が1台と老朽化してきています。運搬車両を増やし、商品売上を増やし、工賃向上を図りたいです。

### 実施内容

岐阜日産自動車株式会社にて購入しました。2019年11月14日(水)、当施設に納車されました。

車名:NV100クリッパーバンDXセーフティパッケージ

配達ルート

- ①揖斐ルート → パレットピアおおの・岐阜モレラ
- ②大垣ルート → 大垣市民病院・大垣イオン
- ③養老ルート → 養老SA下り
- ④南濃ルート → 道の駅南濃・海津温泉
- ⑤桑名ルート → 桑名イオン・東員イオン
- ⑥各務原ルート → 木曽川イオン・各務原イオン・川島SA
- ⑦羽島ルート → 羽島温泉・クレール平田

以上のルートを今回助成金で購入させていただきました車両を含め、7台で配達できるようになりました。

### 得られた効果

配達7ルートに加えて新たな販売先「東員イオン」が10月から加わりました。車をやりくりしていた為、配達は13時頃となっていたようですが、今般から11時頃の配達が可能となりました。

また、各地で行われる販売会への参加を積極的に行うことが可能となりました。

「東員イオン」での販売高は10月80千円ですが、月200千円を目標とします。



## 今後の課題

「利用者 100 名」、「工賃10万円以上が可能」、「商品販売額1億円」、「一般企業への就職者年間 10 名」を事業の目標とし、利用者が「やりがいのある施設」「夢の持てる施設」を目指していきたいと思います。

そのために、利用者と施設が「一般社会の一員として確固たる地位を築く」橋渡しができる、魅力ある職員を育てたいです。

上記を達成すべく、作業所全般の環境整備、作業の種類の特充に努力しています。



# 特定非営利活動法人 P O P O L O

<http://npo-popolo.org>

【所在地】 静岡県静岡市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、身体障害者、生活困窮者

【日常の活動】

- 2018年設立(初年度利用者数10名)多機能型事業所ASTASの運営「就労継続支援B型および就労移行支援」の実施、生活困窮者自立支援法に基づく住居のない人に対して、衣食住を提供し、就労支援を行う一時生活支援事業(年間約110名利用)の実施。
- 引きこもり、生活困窮者、障がい者等に対して行う「中間就労事業」の実施(年間約60名参加)
- 電話相談を中心とした相談窓口事業(年間述べ相談件数約1500件)
- 食料がない方に対して、行政・社会福祉協議会と連携して食料提供を行うフードバンク事業(年間約700世帯への食品提供)

## 「乾燥野菜・果実製造および販売促進のための機材等の整備」

【助成額】 34万円

### 実施目的

普段、多機能型事業所ASTASでは、フードバンクふじのくじから委託を受け、品質には問題ないが、流通の過程で発生する廃棄せざるを得ない食品を無償で企業や個人から寄贈して頂き、それを無償で市役所や社会福祉協議会などからの依頼を通じて、生活困窮者に届けるフードバンク活動を行っています。その活動の中で農家の方から野菜や果実を提供したいという相談を受けることが多くありますが、フードバンクでは痛みが早い生鮮品は受け取れないため、当法人に1台だけ簡易の食品乾燥機が設置されているので、乾燥野菜などに加工して販売や、生活困窮者の方へ提供することに挑戦したところ、反響が多くあり既存の体制では生産量が追いつかないため、機材を整備したい。

### 実施内容

フードバンク活動で断らざるを得なかった野菜、果実を活用し、生活に困っている方々に無償で提供したり、通販などで一般の方々に購入してもらうことで、利用者の工賃アップを目指し、その結果、食品ロス削減や、生活困窮者の食の支援を行う事で、障がい者である利用者の自己肯定感を高めながら社会課題解決へ寄与する取り組みを行う。実施内容は下記のとおり。

①機材の購入 カッコ内は得られる効果を記載

- (1)食品乾燥機(生産性向上、品質の均一化、食品の安全向上、品質の均一化、食品の安全性の向上)
- (2)真空パック機(賞味期限の延長、品質の均一化、食品の安全性向上)

②農家への協力依頼

果実や野菜を無償提供(場合によっては非常に安価で提供)してくれる方を探す。

その際には生活困窮者へ無償提供するために提供してもらう分として寄贈されるのか、それとも障害者の就労支援の工賃向上のために寄贈してくれるのかを確認する。どちらでも寄贈は受ける。

③乾燥野菜・乾燥果実の生産

購入した2台の機材と既存で整備されてある家庭用の1台の合計3台で、1日当たり、2キロ程度の乾燥野菜や乾燥果実の生産が可能になります。

#### ④乾燥野菜・乾燥果実の販売

販売方法は下記のとおりです。

- (1) インターネット販売(Yahoo! もしくはBASEを想定)
- (2) 対面販売(カタログなどを配布し注文数を向上させる)
- (3) 販売会への参加
- (4) アンテナショップや、地域の道の駅などでの販売

#### ⑤生活困窮者への乾燥野菜・乾燥果実の提供

生活困窮者への提供を希望した農家からの寄贈品を加工し、市役所や社会福祉協議会へ相談に来た生活困窮者に対して、依頼を受けて提供する。



### 得られた効果

事業を行う中で、

- (1) 食品を寄贈し、社会貢献したいが、生鮮食品は寄贈できないという制度の為叶えられなかった「生産者の思い」
- (2) 生活困窮による「野菜不足」
- (3) 障害施設の工賃の向上
- (4) 障害者の社会的参加

という課題の解決を図った。

- (1) は従来のステークホルダーの裾野を広げ、市民活動への理解と社会参加を向上することが出来た
- (2) は2014年厚労省より発表されている「2014年国民健康・栄養調査」より低所得世帯の食事は主食に偏り、栄養バランスにかけているとされている。本事業により十全とは言えないものの生活困窮者の栄養バランスの偏りの抑制を行った。
- (3) 乾燥野菜の作成し、販売した分の売り上げは障害者施設の利用者へ分配し、工賃の向上を行った。
- (4) 上記の制度的に社会貢献が出来なかった「生産者の思い」や「生活困窮による野菜不足」という社会課題を解決し、イベント等で販売するという経験を通じ、障害者の社会参加への機会を提供し、自己肯定感の向上を行った。

### 今後の課題

上記課題の解決を行うために事業を行ったが、生産量の向上が行われる前に生産の依頼を断っていた会社があったため、生産設備の拡充を行った後に再度声かけを行なったが、今年度は他商品に代替したため、注文がキャンセルになる等販売網への整備が課題となると感じた。キャンセルになった際の商品については生活困窮者への提供や①どのようにしたら色が綺麗に残るのか、②乾燥時間を変えた際の味の比較等、今後より良い製品を作るための商品開発を行った。

また、様々な作物を作っている農家だけではなく、寄贈される作物の種類が偏りがちであったため、今後は多様な種類を作成するため生産者への声かけを行なう必要性がある。

# 社会福祉法人白百合会

<http://kyoto-shirayurikai.com/>

【所在地】 京都府京都市

【対象者】 知的障がい者、身体障がい者

【日常の活動】

■就労継続支援B型事業所2箇所(それぞれ12名、10名の利用者)の運営

■子ども食堂(子どもの居場所づくり事業)の運営

■募金百貨店への参加

公的資金をいただいている私たちこそ地域に貢献しようと、昨年から、共同募金会の実施する「募金百貨店」に、京都市内で2番目に参加し、焼菓子の主力商品の売上の1割を寄付しています。

■カフェ等の地域開放

祇園祭の時などを中心に、カフェや多目的スペースを地域のイベントなどに使っていただいています。

■大学とのコラボレーション

平成28年5月から、京都女子大学の生活デザイン研究所と提携し、主力商品のデザイン性の向上などにご協力いただくとともに、学生さんたちに企画、制作、販売などの機会を提供しています。

## 「製菓から子ども食堂料理まで対応する厨房機能の強化で工賃アップ」

【助成額】 99万円

### 実施目的

当法人の中心施設である「リ・ブラン京都 中京」は、厨房が狭いため、カフェと子ども食堂の料理づくり、それと、現在定期的な購入者が増えてきている焼菓子づくりを同時に実施しないといけなく、その性格上どうしても「料理優先、合間に焼菓子づくりを行う」という体勢になっています。そのため、バザーの前や、急な焼菓子の注文が入ったときなどは、かなりストレスの溜まる就労環境となっています。また、場合によっては、受注を控えざるを得ず、利用者の工賃向上という面からも問題があります。そこで、料理と製菓をともにでき、一度に処理できる量も増える「高機能オープン」を導入し、狭い厨房の設備の集約化と稼働能力の強化を図り、利用者と職員のストレス減少、生産性の向上を図りたいと考えたものです。

### 実施内容

新しい機械(スチームコンベクションオープン)の導入

この機械は、申請書にも書きましたとおり、以前からぜひ欲しいと思っていたものでしたし、かなりの人気機種であると聞いていたので、

令和元年9月19日付で助成金のご決定をいただきましてから、すぐに発注いたしました。しかし、製造元のホシザキから、消費税引上げの時期で、納品が大幅に遅れる、と連絡があったとき、一向に納品日が決まりませんでした。消費税引上げに関しましては、当法人でも、カフェや物販を実施していることもあり、無縁ではありませんでしたが、今までは、何となく、「小規模な事業規模だから、いつまでも消費税免税業者」という意識もあり、これまで、原材料費購入時の消費税の価格転嫁は真剣に考えてきましたが、完成品などの販売等に当たって、お客様から諸費税をいただくことは考えていませんでした。



しかし、顧問税理士から、行政からの受託事業の中には、課税売上に該当するものもあり、貴法人は、近々に消費税納税事業者になると聞かされ、「お客様から消費税をいただき、それを国や地方に納める」ということも、営業活動における重要なことであることを改めて理解し、今回の消費税引上げの時に、常連様をはじめとするお客様方に、当法人の置かれている状況をご説明し、消費税をしっかりといただくこととし、そのためのスタッフ間の意思統一、レジ購入、作業、お客様へのご説明などを行ってきました。年が明け、2月21日になって、ようやく納品、設置工事が行われました。思っていたより大きいものでしたが、何とかご提出した計画通り、キッチンに設置できました。

しかし、大型機械のため、ダクトとの接続が必要で、それがうまくいかず、設置できたにも拘わらず、稼働はダクト工事の後ということになりました。その後、3月16日になってそれができ、ようやくスタッフが使い始めることができました。

まず、納入会社から、基本的な使い方のレクチャーを受けて、今まで自分たちの施設でできるとは思わなかったような多彩な「料理」が、機械の中でできてしまうものであるということがよくわかりました。

本当は、使えるようになったその日から、カフェスタッフや製菓担当スタッフを中心に、試作品作りを繰り返したかったのですが、折悪く、新型コロナウイルスの蔓延時期に重なってしまい、

- ① 各種イベント、バザーなどの軒並みの中止
- ② 当施設カフェの休業決断
- ③ これらに伴う、製菓活動の停止決断
- ④ 行政による子ども食堂(子どもの居場所づくり事業)の休止要請、それを受けた中止

が相次ぎ、この優れたものの機械を使って、私たちがしようとしていたことや、そのフィールドがすべて奪われるとともに、この未曾有の事態における利用者スタッフの安全確保などの対応に忙殺されてしまいました。

4月に入ってから事態は変わらず、緊急事態宣言など出されて、更に混迷は深まっていますが、国や京都市の英断で、利用者の在宅支援が可能となり、①～④の事態は一向に改善はせず、展望も見えないものの、施設で一番優先しなければならない利用者の健康、安全、安心はひとまず不安要素が減り、スタッフ業務も安定したので、今回の機械を使った試作作業にも力を入れることができました。

そこで、4月22日に、在宅定着で、利用者もいないカフェスペースなどで、非常勤スタッフとして来ていただいているプロのお菓子職人に指導していただき、新しいメニュー(キッシュ)の試作、試食を行い、カフェ再開後の新メニューなどについて、スタッフ間で協議を行い、一定の方向性を出しました。

### 得られた効果



■今回新しく導入したスチームコンベクションオーブンは、いままでの調理用オーブンと違い、「温める、焼く」などの個々の作業ではなく、1台の中で「料理、調理」が可能となるものです。

■これにより、当方のカフェのように、ランチタイムなどに、短時間でお客様のご注文に対応できる調理を出さなければならないところのため、なかなか手のかかるメニューは提供できなかったところの、メニューに対する考え方を劇的に変える効果があります。

■スペースやスタッフの問題から、直ちに本格的な料理メニューを提供することはできませんが、キッシュなどのように従来の軽食と調理の中間的なメニュー、各店の工夫を出せるメニューに挑戦することを後押ししてくれる機械といえます。

■機械設置の遅れや新型コロナの影響などもあり、当初思ったような新メニューの試作、カフェや子ども食堂での提供、将来の工賃増の展望、というような活動までは、事業期間中に行うことはできませんでしたが、活動が日常に復しましたら、必ずこの成果は出せるものと確信しています。

#### 今後の課題

今回、貴財団様のご高配により、このような優れた機械を導入させていただくことができましたので、これを活用して、利用者の工賃を一層引き上げて行くことが、依然として当施設の最大の課題です。

それと同時に、当法人が、昭和 59 年の発足以来最も重視している「利用者に、生まれてきてよかったと思える仕事、経験をしていただく、仕事の技術、能力を身に付けていただく」ということを、時代に合わせて実践してゆくことも極めて重要な課題であると考えています。

# 特定非営利活動法人花咲

【所在地】 兵庫県姫路市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

地域活動支援センターⅢ型事業（定員15名）

## 「利用者の送迎及び物品運搬用車両購入費」

【助成額】 43万円

### 実施目的

利用者の中には自力通所のない方や交通の便が困難な方がおられ、送迎を行っていますが最近その利用者が増えてきたことや各種行事の移動手段に、また電気部品の簡単な取り付けなどの作業も行っていますが、この部品の搬送が増えてきたことなどの要求に応えることを目的とします。

### 実施内容

1. 利用者の自宅から私たちの事業所までの朝・夕の送迎
2. 作業所から作業部品委託会社までの部品の搬送
3. 各種行事に際する利用者の移動等々のために中古自動車(三菱シデリカD2(5人乗り))を増車しました。(現在は1台ですが2台になりました。)



### 得られた効果

送迎利用者の住所が事業所からみて南北にわかれてり、遠距離にわたるためそれぞれの送迎に時間を要し、現在まで使用している1台の車両では効率が悪かった。時には職員所有の車両を利用していたが事故等不慮の事態が生じたときのことを考えると事業所運営上問題がある等々。この度の増車によりこれらの問題点が解消されました。

### 今後の課題

特にありません。

# 特定非営利活動法人あんずぽこ

<http://anspoco.sakura.ne.jp>

【所在地】 兵庫県西宮市

【対象者】 発達障がい者

【日常の活動】

- ①フリースクール活動:不登校の小中学生の昼間の居場所と学習支援
- ②児童生徒やその保護者のカウンセリング
- ③保護者の自助共助のための「不登校を考える親の会」(毎月1回定例)
- ④就学後の子育て支援活動…「子育てサロン」(毎月1回定例)
- ⑤引きこもり予防…高校進学後も自立するまで立ち寄れる場所としての機能も持たせています。  
高校進学後再び不登校になっている若者の早期の相談を受け支援することとしています。
- ⑥学習障がい児への学習支援活動…独立した場所が確保出来次第始めます。

## 「発達障害児も含む不登校児の昼間の居場所と学習支援をする」

【助成額】 77万円

### 実施目的

学習塾を間借り時間借りして活動していました。老朽化した建物で修理費がかさむなど学習塾との共用にも支障が出るようになりました。一方、発達障害の小中学生の利用者が増えてきており、長期的視点で活動継続するためには独立する場所が必要になっていました。西宮キワニス八木良三氏によるマンション提供を受け移転が実現し、備品を購入することになりました。

### 実施内容

最大 20 名が同時に入り、座った状態で活動可能になるよう各室に以下の備品を購入しました。

- ①エアコン 2 台、コピー機、鍵付き物品収納庫を共有物として設置しました。
- ②2LDK のマンションに学習スペース、面接会議兼用室、交流スペース、調理スペースを作ります。  
学習スペースには、本棚と机といす 8 人分、ホワイトボード  
面接会議兼用室には箱庭療法が可能になるよう、机椅子 4 人分及びホワイトボード、物品棚  
交流スペースには円形テーブルとそれに合う椅子を計 8 人分、壁面にブラックボードや掲示版  
調理スペースには冷蔵庫、レンジ台、調理台、(味噌汁給食を実施します)

### 得られた効果

外観はやや昭和な雰囲気ですが、初めて訪れた人はきれいで明るい印象だと言います。おばあちゃんのうちに来たような雰囲気だと言われたこともあります。今までのようなオープンスペースでないため、窮屈に感じる利用者もいます。しかし、近くの小学生が数名ほとんど毎日、歩いて通って来ます。また、夙川駅に近いので、電車でも通いやすいためやや遠方からも通ってくる子どもがいます。荷物が届いて梱包を解いて組み立てるのも子どもと一緒にするなど、利用する子どもと一緒に新たな場所を整備することの体験学習にもなりました。箱庭療法出来るほどまだアイテムは少ないですが、小学生には好評です。子ども一人一人とのやり取りが可能となりました。日々の活動の中で学習支援をしたり、交流スペースで一緒にゲームを楽しむことを並行して行うことが可能となり、子どもに応じた支援ができました。

独立した調理スペースで毎日の味噌汁の給食が出来ました。また月 1 回程度の調理実習も可能になりました。

## 今後の課題

場所が独立できたことにより、時間に制約がなくなり放課後の時間帯の活動が可能になりました。

不登校で利用している生徒も放課後も延長して残ることが出来るようにする。さらに学校に行っている子どもの放課後の学童のような活動をしたいと企画中です。不登校になっていない発達障害の子どもの学習支援や、経済的に塾に通えない子ども、不登校経験のある高校生など、学習支援のできる放課後の居場所を開設したい。手作りのおやつや軽食などを一緒につくるなどを地域の人も招くなどして、地域の集い場に発展することを目指します。インクルーシブ教育を掲げながら、発達障害の子どもへの合理的配慮もかなわず不登校になっている子ども達が少なくないことを知りました。学校に通っていても、学習支援が十分でないままになっている子どもも多く、こういった学校の弱者の放課後の居場所をつくり活動することで、障がい者への理解を深めることが今後の課題です。



# 社会福祉法人いたみ杉の子

<http://itamisuginoko.or.jp/>

【所在地】 兵庫県伊丹市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

- 第一種社会福祉事業：障害者支援施設の経営
- 第二種社会福祉事業：障害福祉サービス事業、一般・特定相談支援事業の経営  
日中一時支援事業、障害者就業・生活支援センター事業の受託  
障害児通所支援事業の経営
- 権利擁護事業  
福祉に理解ある弁護士や司法書士等によるNPO法人と連携して法人後見などの権利擁護事業をしています
- 発達支援連携室  
法人独自の発達支援連携室を設置し学校や行政、また各支援機関と連携するとともに保護者への学習会や無料相談を実施
- 地域交流  
法人本部がある伊丹市鴻池小学校区の住民組織と連携し、地域の夏祭りや住民ボランティア活動の支援等を実施

## 「グループホームの備品購入」

【助成額】 88万円

### 実施目的

障害をもたれた方々の住み慣れた地域での暮らしを支えるためのグループホームの新設に際し、共有部で使用する備品の整備を行う。

### 実施内容

新設のグループホーム『ガーデンハイツ杉の子』（伊丹市昆揚南 1-206）においては、3つのグループホームと1つの事務所（共有スペース）を併設しています。

- ①3つのグループホームにおいて、各々のリビング・キッチンで使用するテーブル1台と椅子7脚を整備する。
- ②事務所にある地域交流スペースに、ミーティングテーブル1台と椅子6脚、あわせて、男女更衣室にロッカーを1台ずつ整備する。

### 得られた効果

新たなグループホームの建築において、備品の整備に十分な予算がなかったところ、今回の助成をいただき整えることができ大変喜んでいただいております。特に、リビングで使用するテーブルと手すり付きの椅子においては、利用者の高齢化に伴い使いづらくなっていたものでもあり、食事やだんらんなど日々の生活に安心と潤いをもたらしてくれています。また、地域交流スペースを整えられたことで、今後地域住民との交流の機会やイベントでの活用など、地域づくりにも活用できると期待しています。



## 今後の課題

就学前の児童や発達障がい児者の増加、精神疾患、介護や医療対応など、障がい児者への支援の必要性は高くなっており、また、広範囲にわたってきています。また、当事者だけでなくご家族の高齢化や親亡き後の問題はより大きなものとなってきています。将来にわたって安心して豊かに暮らし、働けることを支援するためにも、より幅広く質の高い支援が求められていると感じます。その実現のためにも施設や設備を整えるとともに、人材の育成が急務となってきています。また、障害理解を広げるため、地域交流や啓発などにも引き続き力を入れ



# 特定非営利活動法人元気アップみのり

<http://genkiupminor.com/>

【所在地】 兵庫県相生市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

障害者総合支援法に基づく事業（就労継続支援B型事業所）

## 「障がい者を支援する取り組みの環境整備のための工事や物品購入費」

【助成額】 32万円

### 実施目的

新型エアコンへの設備の更新。

夏の猛暑対策を万全なものとし、利用者の快適な作業環境を維持する。そのことに伴う利用者の満足度やモラル、ひいては生産性の向上をはかる。あわせて新機種への更新によって省エネ実現をはかる。

### 実施内容

平均して約7～8名の利用者がお菓子の袋詰め作業を行なっているメインの作業室。

天井吊下げ式の業務用パッケージエアコン(200Vの低圧電力仕様)を新型のものに交換した。

メーカーでの生産の遅れから、設置工事の日取りが大幅に遅れたが、去る11月2日に無事設置を完了。

### 得られた効果

夏の猛暑対策として導入したものであるが、設置が遅れたことから現在、暖房用として使用を開始した。

まだ実施効果があらわれるのは先の話であり、実施目的の欄でも述べたように、快適な作業環境を提供することで出勤率の向上及び生産性の向上が見込まれることと、最新機種への切り換えによる省エネ効果が出るものと見込んでいる。

### 今後の課題

1. 利用者定員の充足(現在12名を15名に)
2. 利用率(利用者の出勤率)の向上(現在50%台を70%台に)
3. 利用者工賃のアップ(現在 12,750 円を 20,000 円台に)
4. 利用者とのコミュニケーション力の強化(オープンダイアログに学ぶ)
5. 医療連携体制の構築(訪問看護ステーションの利用)
6. 市及び社協の地域包括支援体制との連携
7. 職員の処遇改善(賃金体系の見直しと特定処遇改善加算の獲得)
8. 老朽設備の更新(納品車、冷蔵庫、テレビ、洗濯機、掃除機 etc)
9. 後継者問題解決の方向性と目処を立てる。
10. 家族会活動の活性化。



# 三木要約筆記ダンボ

【所在地】 兵庫県三木市

【対象者】 身体障がい者

【日常の活動】

- ①聴覚障がい者（三木市身体障害者福祉協会難聴部 みみな草会）の定例会、各種行事の支援活動
- ②要約筆記者養成のため、社会福祉協議会と連携し「啓発講座」の開催。以前は奉仕員養成講座の開催。
- ③ボランティア活動諸行事での情報保障。

## 「要約筆記全体投影用書画カメラとその関連機器の購入」

【助成額】 24万円

### 実施目的

平成28年4月より、三木市意思疎通支援事業がスタートし、要約筆記の派遣も行われています。しかし、聴覚障害への理解促進に取り組む当事者組織の会議や活動においての支援や、周辺地域の社会に働きかけていく支援活動も必要です。三木要約筆記ダンボはボランティアグループとして情報保障も含めた様々な支援を担っています。活動を活性化し理解と支援の輪を広げ、社会障壁を少しでも軽減させ多くの人に認知してもらい、平等で暮らし良い街づくりをめざします。

### 実施内容

要約筆記全体投影用書画カメラとその関連機器の購入

- ノートパソコン
- 書画カメラ
- 単焦点プロジェクター



### 得られた効果

障害者差別解消法や差別禁止法、障害者雇用促進法などを少しでも分かりやすく広める活動を継続し、認知度を高め社会的障壁を少しでも軽減させ、多くの人に認知してもらいたいと思います。そして平等で暮らし良い街づくりをめざします

## 今後の課題

要約筆記業務の認知度がまだまだ低く、団体に入会する人も少ない。啓発講座を開催しても、応募者は少ない。超各障害者の意思疎通は補聴器での聴覚補償や手話でのコミュニケーションと多くの人が認識しているのではないと思われる。高齢化社会となり中途失聴や高齢難聴などで手話のできない多くの人が不自由を感じておられる現状を、多くの人に認識してもらえ活動を展開せねばならない。



# 特定非営利活動法人あすなろ

<http://npo-asunaro.org>

【所在地】 兵庫県三田市

【対象者】 精神障がい者

【日常の活動】

あすなろ相談支援事業所、就労継続支援B型事業所「新鮮組」、あすなろ訪問看護ステーション、居場所サロン 喫茶「あすなろ」、精神保健福祉の普及・啓発活動

## 「野菜の無駄をなくし工賃アップにつながる乾燥野菜づくり」

【助成額】 40万円

### 実施目的

就労継続支援B型事業所「新鮮組」では野菜を育て成果物を販売していたが、日が経つと売れ残りが出て、無駄が多かった。そのため収穫野菜を乾燥して、販売することでロスを防ぐことが可能になる。通常の天日干しでは天候不順によりうまく乾燥できないことも多いことから、多くの量の野菜を加工できかつ、天候に左右されないように野菜乾燥機を購入することが必要であった。加工品は袋詰めして販売するとともに、他の市内の事業所にクッキーなどの加工品の原料として提供する。

### 実施内容

収穫野菜を刻み、またカットして乾燥する野菜乾燥機の購入。  
動力が3相電気のため、動力引き込み工事を実施。

### 得られた効果

現在、シイタケ、ネギ、ダイコン、ニンジン、トマト、柿、サツマイモ、なすびなどを中心に加工しており、単体としての売り上げも上がってきている。また以前より三田市のしごと部会から派生した「集い」グループ内で、他の事業所のクッキーなどの原材料として利用してもらっている。

特に、柿やトマト、シイタケ、ダイコン、なすびなどは好評を博している。

今後野菜の種類を増やすなどしてみそ汁の具材やお菓子の原料として、また単品としても販路を広げながら行っていきたい。



## 今後の課題

現状に甘んじることなく、多品種の野菜の加工販売をしていきたい。また他の事業所との協働で、三田産の商品開発にも携わっていきたいと思っている。

どうしても季節の野菜という性質上、年間を通じてコンスタントに同じものを作り続けることが難しく、何か策はないか検討していきたい。

現在販売におけるブランディングを検討しており、同じものでも見せ方によって売れ行きが違うので、地元の学生グループに依頼して、商品パッケージの改善に取り組んでいる。



# 一般社団法人 i - c r o s s o

<http://i-crosso.org/>

【所在地】 兵庫県三田市

【対象者】 精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者、  
身体障がい者、難病患者 等

【日常の活動】

多機能型事業所として、自立訓練(生活訓練)と就労継続支援B型事業を運営しております。利用者さんの多くは精神障がいの方ですが、発達障がいや知的障がいの方、重複しておられる方もおられます。作業内容は緩衝材づくりの軽作業、古本ネットショップにおける仕入れ、出品、検品、梱包、発送、売上管理、在庫管理などです。自立訓練(生活訓練)では、事業所側で作成するプログラム式ではなく、ニーズに基づいたプログラムを個別で計画して支援や訓練を実践しています。理念は「徹底した個別対応」です。生活面の充実を図るだけでなく、社会生活力の向上を目指し、権利擁護にも力を入れています。

## 「就労継続支援 B 型における古本絵本ネットショップの備品費」

【助成額】 100万円

### 実施目的

- 1、付加価値のある絵本を販売し、工賃向上を目指すこと
- 2、「作業内容の拡充を図り誇りの持てる作業の提供、かつ効果の高い職業リハビリテーションを継続すること
- 3、絵本カフェとインターネットを通じて、地域の方々とのつながりを大切にする

### 実施内容

【実施場所】 就労継続支援B 型事業所 アイクロッソ

【実施内容】 古本絵本ネットショップ運営のため備品購入

【購入備品】

①書籍消毒機 ②空気清浄機 ③除湿器 ④掃除機 ⑤シュレッダー ⑥作業用チェア ⑦タブレットパソコン

①書籍消毒器ブッククリーンCOCOCHI(ここち) 図書館流通センターにて購入。

COCOCHIはほこりやごみ、においだけでなく、たばこやノロウイルスやインフルエンザウイルスも除去し消毒することができるため、古本絵本に付加価値ができる。そのため、子どもさんにも安心して手に取って頂ける状態とすることが出来る。

②空気清浄機(Panasonic製 F-VXS90-TM) 上新電機三田ウッディタウン店にて購入。

絵本を在庫として保管し実際に作業するスペースに設置し、絵本の清潔さを維持し、利用者さんの作業環境としてもより望ましいものにするために購入。

③除湿器(Panasonic 製 F-YHRX200-S) 上新電機三田ウッディタウン店にて購入。

本は湿気に大変弱いいため、良い状態を維持するために購入。

④掃除機(ポッシュ製コードレスクリーナー) (株)KYS 楽天市場店にて購入。

コードレスとしたのは、絵本の保管のための本棚が並んでいるため、コードレスの方が効率的に清掃できると考えたため、また、掃除機も絵本の清潔さや利用者さんの作業環境のクリーンさを維持するため。

⑤シュレッダー (有)アクティブウェア(フェローズ代理店)にて購入。

マイクロスパイラルカットというセキュリティレベルの高い機種となっており、個人情報保護のために購入。

⑥作業用チェア 三和エフエムデザイン楽天市場店にて購入。

現在使用しているパイプ椅子では転倒リスクが高く、危機管理上も転倒しにくく作業も長時間継続できるものが望ましいと考え購入。

⑦タブレットパソコン Microsoft ストア法人専門窓口にて購入。

主に仕入れ時、在庫管理、作業支援の記録、進捗管理などに活用するためだが、移動が多くなるため、タブレットパソコンの中でも軽量のものが必要と考え購入。特に脳性麻痺の方などは、重いパソコンでは移動が困難となるため、タブレットパソコンでの職域拡大を図った。

得られた効果

成果としては、職場環境の改善が大きく挙げられる。また職場環境が改善されたことにより衛生管理などを訓練プログラムにすることも出来、利用者さんにとっても衛生管理の重要性について気付く機会となっている。詳細は下記に記載。上記備品がすべて揃ったのが2019年いっぱいだったため、2020年度において上記備品を活用してネットショップでの販売を徐々に拡大していった。2020年2月現在、主にはアイクロツノAmazon店にて販売を進めている。職場環境としては、これまではクリーニングにもアルコール溶剤を使用していたため、本ににおいがつくだけでなく作業部屋中にアルコールのにおいが充満してしまっていたため、書籍消毒器を活用することで本ににおいやウイルスも除去され、空気清浄機や除湿器、コードレス掃除機を活用することで衛生面も改善された。尚、シュレッダーにおいてもこれまで使用していた機器と比べ静音性が高く、聴覚過敏の方がおられてもシュレッダー業務に従事することが出来るようになった。

また、空気清浄機や除湿器、シュレッダーにおいては、日々のメンテナンスも重要になるため、衛生管理業務の一環として訓練プログラムの一つとしている。その成果として、三田市社会福祉協議会において清掃業務の実習を三田市就業支援センターびーず様とアイクロツノの2事業所協働での取り組みを検討して下さり、現在計画策定を進めているところである。作業用チェアとタブレットパソコンにおいては、移動や着席時の転倒リスクも軽減され、またパソコンもスペックが高くスムーズに入力業務が出来るため、パソコンがフリーズすることがほとんどなくなり業務が滞ることが少なくなった。

今後の課題

職場環境はかなり改善されたため、今後の課題としては工賃売上をいかに向上していくかということが最優先課題である。現在、アイクロツノAmazon店では出品数が増えていってはいるものの、売上が劇的に増えたということはなく、目標としている売上金額には達していない。今後はYahoo!ショッピング店においても併売を行うこと、更に自社WEBショップの構築を検討している。販路を拡大することで売上向上を目指す。また絵本カフェにおいても、今後の事業展開の一つとして計画していきたいと考えているが、現状では人手の問題やリフォームの問題もあるため、まずは上記の通り販売の基盤づくりから取り組んでいく必要があると考える。



# 社会福祉法人ぶったあ福祉会

<http://awaji-butta.or.jp>

【所在地】 兵庫県淡路市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

- 生活介護・・・菓子やパンの配達、さをり織り等
- 就労継続支援B型・・・菓子やパンづくり、掃除や草刈り、食堂でのレジや洗い場、ホールでの接客等
- 会議や行事、イベントに参加支援 ○通院への同行支援 ○入院時の支援

## 「送迎用軽自動車の購入」

【助成額】 98万円

### 実施目的

ぶったあ福祉会では障害の重い利用者の送迎に車の移動は不可欠です。さらに自主製品のケーキやクッキー、パンを地域のお客様に配達するのにも車を利用しています。ところが木口福祉財団様より十数年前に助成を受けて購入した旧車両も故障が多く修理しながら使用しており、運転にも気を使う状態が続いていました。快適な走行ができるよう新車両の買い替えを目的として応募しました。

### 実施内容

<送迎>

利用者の各自宅と3ヶ所のグループホームから、障害者支援センターぶったあ生活介護を利用するために、毎日朝夕、十数名の利用者の送迎を行っています。昼食時には、「食堂ひとやすみ」まで利用者に乗せて往復しています。施設の周辺には国営や県の公園があり、天気の良い日には利用者の外出レクで公園まで車を使用しています。

<配達>

毎日焼きあがったパンや菓子を車に積んで、各家庭やお店に配達しています。淡路市内だけでなく、洲本市に配達に出かけるときには距離が長くなるため、新しい車は快適で利用者にも好評です。

### 得られた効果

故障と修理の繰り返しで何とか使用してきましたが、エアコンが効かない、オイルが漏れる、異音がする、エンジンがなかなかからない等の状態が続き、近くには行けるが、遠くには運転しないほうが良いと言われながら送迎や配達を行っていました。今回、新しい車が来た時には車の安全性が保持でき、みんなの不安が解消されました。安心して利用者に乗せて走行でき、さらに活動範囲を広げることができます。



### 今後の課題

新しい車の活用で、安全、安心して送迎や自主製品の配達ができます。

遠出も可能になり、利用者の余暇活動も広がります。

今後、車での販売の市場拡大を目標に、カップケーキやクッキー、パンの販路の確保を図るため、各自治体や地域の人たちと交流しながら、利用者が生き生きと仕事ができる場を求めていきたいと考えています。

また自主製品の広告宣伝を強化し、「ぶったあ福祉会」の認知度を高めていきたいと思います

# 認定特定非営利活動法人療育センター燦々

<http://blog.canpan.info/rsansan-blog>

【所在地】 島根県出雲市

【対象者】 発達障がい者

【日常の活動】

## ■児童発達支援事業所ひまわりの運営

児童福祉法に基づき、1日定員10名とし、就学前の子どもたちの療育を実施し、一人一人に合わせたプログラムを作成し取り組んでいる。また、保育所等訪問支援も実施している。

## ■出雲市情緒障がい児等発達支援事業

当センターの理事である医師が実施する医療相談と当センターの指導員が実施する心理相談を行うスクールアドバイザー事業と、対象児童生徒に対する集団療育活動を出雲市の委託事業として当センターで実施している。

■発達障害を中心とする就学後から青年・成人の方への1回1時間の個別療育指導、個別指導を受けている対象（児）者の保護者の相談や学校・作業所への訪問、個別療育を行う上で必要とする発達検査については、当センターで設定した指導料で実施している。

## 「放課後等デイサービス事業の送迎車両購入」

【助成額】 56万円

### 実施目的

今年度より、当センターでは多機能事業所として、放課後等デイサービスを実施しています。当センターのある出雲市平田地区には、放課後等デイサービスが1か所のみで、学校に通っている子どもたちが放課後に療育を受ける場が見つからず困っている現状があります。今回の事業を通して、保護者や子どもたちが地域で適切な療育や支援が受けられるようにすることを一番の目的としています。

### 実施内容

実施場所:児童発達支援事業所 ひまわり(島根県出雲市平田町中の島 7377)

サービス提供時間:月・火・水・金:午後1時半から5時半まで。学校長期休業中等:午前9時から午後4時まで。(国民の休日、お盆及び年末年始は休業)

利用定員:児童発達支援と放課後等デイサービス合わせて10名

放課後等デイサービスでは、学齢期の子どもたちが生活能力向上のために必要な訓練を行い、社会との交流を図ることができるよう、利用時の心身の状況並びにその置かれている環境に応じて適切かつ効果的な指導及び訓練を行っていきます。具体的には、日常生活動作の指導、集団生活への適応訓練、個別訓練、その他に学習活動(宿題、読書等)、創作活動(絵画、工作等)を中心に実施しています。

送迎は、利用している子どもたちが通学する小学校、中学校等と事業所との間の送迎を行っています。帰りは、企画的には家族による迎えとじていますが、家族の迎えが不可能であり、なおかつ希望するご家族には帰りの送迎も行っています。

## 得られた効果

開始当初は、放課後等デイサービスの利用者が平均1日1~2人の利用者でしたが、現在は、1日平均3~4人の利用があります。午前中に実施している児童発達と合わせると1日平均8~9人の利用となります。放課後等デイサービスの利用者が増えてきたこと背景には、当センターが取り組んできたことが徐々に周知されてきたこと、学校に行くことができる児童の利用のみではなく、短時間しか学校へ行けない児童の利用へとつながったことが影響していると考えられます。こういった多様なニーズに対応していくためには、送迎が必要であり、今回、送迎車を購入したことにより、地域での放課後の療育へとつながっていったと考えています。また、現在、児童発達を利用している就学前の子どもたちの保護者から、卒園後も当センターの放課後等デイサービスを利用したいという要望を多数いただきました。児童発達支援と同じ場所で放課後等デイサービスを実施したことにより、卒園後も安心して放課後を過ごすことができる場があるという情報を保護者や子どもたちに伝えることができたことも、大きな成果と考えています。

## 今後の課題

現在は、多機能事業所として開所しているため、放課後等デイサービスとして児童を受け入れることができる人数に制限があります。現在、児童発達を利用しており、卒園する児童の中に来年度からひまわりの放課後等デイサービスを利用したいという希望を多数いただいています。現時点では、希望者を受け入れることができますが、今後、早期療育として取り組んでいる就学前の新規の利用者を受け入れることが難しくなってきます。そのため、理事より提供していただいた場所を使って、新しく放課後等デイサービスができるよう県に申請していく方向で検討しています。また、多様なニーズを受け入れる中で、さらに送迎場所が増えるため、送迎の方法についても工夫検討していく必要があると考えています。

また、現在は、前理事長からの多額の寄付により当センターの事業を行うことができます。今後、送迎箇所の増加、新規事業の展開に伴い、多額の寄付に頼らず事業を展開していくことができるよう、地域に合わせた工夫と他機関との連携などが今後の課題になると考えています。



# 点字サークルてん

【所在地】 岡山県岡山市

【対象者】 視覚障がい者

【日常の活動】

点訳用紙、シールに点訳希望者に配布。

## 「点訳活動」

【助成額】 2万円

### 実施目的

視覚にハンディをもつ方の希望を受けての点訳活動。バスの時刻が知りたい。レストランのメニューが知りたい。本が読みたい。テレビガイドが知りたい。絵本が読みたいなどその都度の要望に応じるため活動しています。

### 実施内容

点訳活動に必要な消耗品の購入。

普段は各自のノートパソコンに、空いた時間で点訳入力し、岡山市社会福祉協議会所有の点字プリンターで希望に応じ複数化して希望者に利用してもらっています。今年3月から新型コロナウイルス感染症の影響で、社協の点字プリンター設置場所が利用できなくなり、各自、ノートパソコンに点訳入力は続けていますが、複数化が休止状態です。

### 得られた効果

点訳に必要な備品を購入することができ、資金面の心配なく従来通りの点訳活動ができる。

### 今後の課題

特になし

# 公益社団法人日本オストミー協会 岡山県支部

<http://www001.upp.so-net.ne.jp/joa-okym/>

【所在地】 岡山県岡山市

【対象者】 身体障がい者

【日常の活動】

- ・社会適応訓練事業としての講演会、講習会
- ・社会参加促進事業としての研修会
- ・会報発行事業
- ・オストメイトに対するセルフケア及び相談会
- ・会員の親睦と福祉の向上
- ・オストメイトの福祉増進
- ・関連諸団体の行う事業への連携協力

## 「パソコン・プリンター購入事業」

【助成額】 25万円

### 実施目的

会報発行事業に関して、原稿作成に使用するパソコンとA3サイズの印刷が可能なプリンターを更新して、事業の円滑化を図る。

### 実施内容

岡山県倉敷市玉島柏島 5013-2 ビレッジハウス玉島2棟102号の弊社事務所に置き、会報原稿の作成及び印刷に使用の他、会員名簿、封筒宛名印刷、ポスター印刷その他事務処理にも使用します。

### 得られた効果

老朽化して更新時期を過ぎているパソコンを使用していましたが、今般の更新により故障の不安もなく、円滑に会報発行の事務処理が行えます。

また、A3サイズが印刷可能なプリンターは所有しておらず、年6回の発行の際は借用先を探して印刷していましたが、購入により随時に印刷が可能となり、更には啓発活動用のポスターの印刷も行う等、円滑な事業運営が可能になりました。

### 今後の課題

会員は高齢者が多く、会報が重要且つ不可欠な情報伝達手段となっており、一層の内容充実を図りながら発行を継続してまいります。

そして、オストメイトに対する一般社会の認識は低く、周知に向けてのチラシやパンフレットの作成、印刷を行い、啓発活動を根気よく続けてまいります。



# 合同会社 TAKIBI

<https://www.hoharu.com>

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

放課後等デイサービスは小学校1年生から高校3年生までの、発達に障害がある子どもが通うことができる施設です。平日は学校が終了してから 17:30 まで、土曜や長期休業中は 9:30~15:30 まで活動をしています。また、学校に通えない、不登校と呼ばれる子どもたちは平日の日中から施設に通っています。日常の活動は「学び・遊び・仲間」の3つを柱に、課題の遅れをサポートする「学習支援」、好きなことを見つける「遊びの活動」、コミュニケーション力を高める「仲間作り」を、日常的に行っています。

## 「発達障がいを抱える児童の送迎車両の購入費」

【助成額】 100 万円

### 実施目的

被災後の仮設校舎や仮設住宅で生活する子どもや保護者の負担を軽減するため、送迎サービスを拡充し、地域機ニーズに応えたいと考えています。発達障がいを抱える子どもを持つ家庭では共働きが難しいため、経済的にも困難なご家庭が多いです。我々が学校と家庭の送迎を行い、子どもを預かることができれば、保護者は働く機会を得られるようになり、家庭の経済状況を好転することもできると考えています。そのような理由から、発達障がいを抱える子どもたちを取り巻く状況が少しでも良い方向に向かえるよう、私たちがサポートできることを目指しています。

### 実施内容

昨年の西日本豪雨で真備町にある特別支援学校1校、小学校2校が被災をしました。現在も学校の復旧工事をしており、子どもたちは遠方の学校に併設した仮設校舎に通っています。また今回の災害で真備町の人口 22,000 人の4割にあたる 9,000 人が家を失い、仮設住居で生活をしています。町外の「みなし仮設」(自らの資金では住宅を得ることのできない被災者に対し、地方公共団体が民間賃貸住宅を借り上げて、仮設住宅とみなす制度。)にも多くの方が暮らしており、私たちの施設に通うご家庭も遠方に住まわれているケースが多いです。そのため、当施設では子どもたちの送迎範囲を大幅に広げ、車での送迎を行っている状況ですが、それでも全てのご家庭をカバーできておりません。学校と家庭が遠くなってしまったことで、施設に通えない、または保護者の送迎に頼らざるを得ない状況となっています。被災後の各ご家庭の負担を考えると、この時こそ、我々のような施設が子どもの発達と、ご家庭の支援をフォローする必要があると考えています。その解決策として、送迎車両を増やし、送迎を行う従業員を雇用し、送迎サービスを手厚く行えるようにしたいと思います。

### 得られた効果

新たに送迎車両を購入させて頂き、導入することで、今までご希望に添えなかったご家庭へも送迎が可能になりました。特に未だ「みなし仮設」にお過ごしのご家庭から大変感謝されています。今回、購入させて頂いた「ホンダ フリード7人乗り」は、コンパクトかつ大人数が乗れるので、みんなで公園や、ハイキングに出かける際にも大変有効的に活用することができています。

## 今後の課題

今後の課題としては、送迎車両を5台準備し、送迎を行う従業員を雇用したいと思います。昨年度の経営実績は施設の立ち上げと、復興にかかる費用があったため大幅なマイナスとなっていますが、新年度の利用者増加に伴いランニングコストは黒字が見込まれています。地域には施設がまだ足りていない状況ですので、近い将来には新たな事業所を開設したいと準備を進めています。私たちは、災害のあった町のニーズに応えられる福祉施設でありたいと考えています。



# 特定非営利活動法人彩

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、身体障がい者、  
発達障がい者、難病患者

【日常の活動】

■就労継続支援B型事業所「いろどり」 ■就労移行支援事業所「irodori」 ■就労定着支援事業所「irodori」  
■生活介護・就労継続支援B型「ここいろ」

## 「送迎用の車両購入」

【助成額】 100万円

### 実施目的

法人立ち上げ当初(7年前)に購入した車両の走行距離が増えており、いつ止まってもおかしくないような車両がありました。そのため、新しい車両の購入させていただきたく、申し込みをさせていただきました。

### 実施内容

特定非営利活動法人彩 ここいろ(生活介護・就労継続支援B型)にて、利用者の方の送迎、利用者の方の外出などの活動に車両の使用をさせていただいています。



### 得られた効果

新しい車両により、送迎を利用される方、また、利用者の方の外出などに利用することによって利用者の方も喜んでいただいています。

また、職員の方も、古い車両での運転による、故障や不具合による不安の軽減につながっています。走行距離が多くなった車両については、どうしても故障のリスクが多くなってしまいます。安全面においての不安が大きくなることが考えられます。そのための環境改善として、車両の購入ができたことが大変よい環境改善になっています。職員の方のストレスになるような環境は少しでも早めに改善できるように対応しているようにしていますので、今回の車両の購入についてもとてもよい効果が得られているように思われます。

### 今後の課題

今後についても使用している車両は、どんどん老朽化していくため、計画性を持って車両の交換を行っていきることが課題になっていると思います。車両については、故障があるため、その都度、点検・修理などを行うようになっていきます。整備の必要性和重要性は、安全に則った運営を行っていく上では、重要である事項であるため、その意識を再認識するように職員の方にも周知していくように考えています。助成を頂いた車両もそうですが、備品などを大切に扱う意識を持って、日々の活動を行ってもらうこと、また、同時に利用者の方々にも物を大切に扱う意識をもってもらえるような環境で活動を行っていただけるように考えていきたいと思っています。

# 特定非営利活動法人グリーンハウス

<https://greenhouse-npo.amebaownd.com/>

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

## ■就労継続支援A型事業所の運営

- ・缶風車づくり・ガウン/タオルたたみ、検品
- ・自動車部品加工
- ・商品袋への封入作業
- ・草取り、清掃
- ・フルーツキャップ袋詰め作業

## 「物品や納品物に必要な車の購入」

【助成額】 49万円

### 実施目的

賃金向上のため、必要な物品などの購入のため。



### 実施内容

運搬用車両(ダイハツ キャブオーバ)の購入。

当事業所から納品業者への搬入全般に使用。納品できる数が増えました。

円滑に納品できることができたため今後賃金の向上が見込まれる。

### 得られた効果

少しずつですが月の売上げが上がってきています。

納品個数も上がってきています。

業者の急な納品にも対応する事ができるようになりました。



### 今後の課題

1人1人が生産能力を上げて賃金の確保を目指しつつ利用者に一般就労に繋げられるよう事業所自体の体制の底上げを図る。

作業の一本化をめざすこと。

専門科の意見を取り入れ、視野を広げる。

# 特定非営利活動法人よりそいグループ

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 精神障がい者、身体障がい者

【日常の活動】

## ■就労継続支援B型事業所

倉敷市から委託された公園清掃(7ヶ所)、ポスティング作業、バリ取り、手芸、内職作業(フルーツネット) お寿司作りと販売

## 「利用者さん送迎用車両購入」

【助成額】 80万円

### 実施目的

- ①より多くの障がいを持つ人々に送迎サービスを届けることができる。作業所に通所する多くの方が自力で通所することができない。と同時に障がいを持つ子の親たちが高齢化し家族送迎も困難なご家庭が多い中、送迎車患用を増やし多くの人々に安心して通所してきてもらいたい。
- ②特に盲人障がいの人々は送迎という自分の足がなければ広い社会参加できず、その人々の足になりたい。

### 実施内容

車がいただけるまではスタッフの車を法人として借り上げ、障がいを持つ人々の送迎を行っていた。新しい車を購入することができ、今はその車で送迎をさせていただいている。利用者さん達が新しくきた車に乗りたがり、嬉しい悲鳴をあげています。酒津という倉敷のやや北にある事業所であるが南の方面の水島地域の人々の送迎車として使わせていただいている。その水島地域から2人の盲人障がいの方を送迎しております。

### 得られた効果

- ①障がいを持つ方々がより安心して通所することができてきた。
- ②障がいを持つ子の親達が送迎サービスがある事でより安心されている。
- ③当事業所の利用者さんは、独居の方、生活が成りたらず様々の社会サービスを利用しつつ通所してる方、長く引きこもりを続けていた方と、非常に大変な利用者さんが多いので送迎車両が増えたことで大きな安心をもらう事ができた。

### 今後の課題

2019年4月からB型作業所として(10年間は小規模作業所であった)立ち上がってはきたが、利用者さんが求める「ホッと安心して、くつろげる場所」の存在ではなくなりつつあるのではと思う時がある。障がい者総合支援法に基づくがゆえに工賃アップが求められる。より重症な障がい者が削除され、軽症な人々の通所する作業所展開をする事が良しとなっていく傾向が強い。理想を求めると赤字決算となってしまふ。



# 特定非営利活動法人トラストワークス

<http://trustworks.or.jp/>

【所在地】 岡山県津山市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

障害者総合支援法に基づき就労継続支援A型事業及び就労継続支援B型事業を併設した多機能事業所として活動しております。

## 「事業利用車両購入費」

【助成額】 96万円

### 実施目的

リースキン事業(外回り)にあたって、軽自動車が必要なのですが、利用者の送迎車を並行して利用していました。顧客も増えて車両不足でした。職員主導で事業を行ない臨機応変に車両活用していましたが、事業も軌道に乗り利用者のみで交換等に出るような体系に移行出来ます。それにはリースキン事業専用の車両が必須でした。車両購入により業務効率向上と業務管理の徹底を図り、思惟では利用者の工賃の増加に努めます。

### 実施内容

リースキン事業での車両利用頻度が高くなり、車両不足になっていた為、車両増台を検討していました。送迎車両を利用して外回り業務を行っていますが、リースキン事業専属の車両を確保してしっかりとした業務構成を確立し、車両増台により利益アップに努めたいと思っております。他の業務と併用して車両を使用していたので車両利用時に合わせて行動していた為、作業効率も悪く、ガソリン使用量も余分に発生しています。そこで今回木口福祉財団様からの助成を受けることが出来たので、車両購入することが出来ました。



### 得られた効果

今回木口福祉財団様からの助成を受け、車両を購入することが出来ました。それに伴い、送迎者専用車両、リースキン事業専用車両と使い分けて利用させてもらっています。以前と比べ効率的な動きが出来るようになり、作業効率も上がり無駄な人の動き、ガソリンの消費が解消されました。お客様とのアポイントの予定、配達時間の相談等が円滑にできるようになりました。また送迎車と兼用していた為、利用者を待たせたりしていました。色んなことが解消され、事業そのものが円滑かつ効率的に機能しています。

### 今後の課題

近年岡山県でも就労継続支援事業所が閉鎖され、障害者が数百人職員を数十人解雇という大変残念な事実がありました。報道での原因は障害者の工賃が払えないという事でした。各事業所における利用者の工賃向上が課題になってきています。当事業所でも適正なる賃金の支払いが重要となります。

# 特定非営利活動法人れんげ福祉会

【所在地】 岡山県総社市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

就労継続支援B型事業所 「ワークセンターそうじゃ」

地域活動支援センターⅢ型 「総社福祉作業所」

## 「ホロ付き軽トラック購入」

【助成額】 80万円

### 実施目的

当事業所(ワークセンターそうじゃ)の授産品である花苗を販売先等に運搬していたホロ付き軽トラックが使用年数20年以上、走行距離10万キロ以上となり、故障も多くなってきたため新しく購入したいと考えていた。

### 実施内容

就労継続支援B型事業所「ワークセンターそうじゃ」において、授産品である花苗の運搬に必要であったホロ付き軽トラックを購入。納車時に純正のホロを付けていただき、2段に荷物を積めるように販売店でしてもらっていましたが、花苗を運搬するには強度が弱く、補強をする必要が出来たため改良するのに納車から3週間待ち、11月22日より使用をはじめることができました。毎日のサン直広場への出店や配達等に活躍しています。

### 得られた効果

購入したホロ付き軽トラックは、故障の多かった前の車両より走りもよく、運転席・荷台とも少し広く快適に運搬の作業をこなすことができます。また、AT車にしたことで、どの職員でも運転できるため運転者を限定することなく作業に関わることができるようになりました。

### 今後の課題

手をつなぐ親の会が小規模作業所から始めた福祉事業も30年が経ち、利用者・そのご家族共に年齢が高くなってきているため、今までと同じように作業をしたり、イベントを計画したりすることが難しくなりつつあります。若い世代への世代交代や親亡き後の利用者の生活の支えについてなどの生活面のサポート、体力に応じた作業を効率よく考えていくことがこれからの課題です。



# 特定非営利活動法人あゆみの会

【所在地】 岡山県総社市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、  
発達障がい者

【日常の活動】

地域活動支援Ⅲ型事業、就労継続支援B型

ボランティア団体支援による、年中行事を実施(焼肉、クリスマス会、ひな祭り等)

## 「利用者送迎用、物品運搬等の車両購入」

【助成額】 92万円

### 実施目的

利用者の送迎、物品の運搬

### 実施内容

当事業所において 利用者の送迎及び、ロビーカフェ  
の際の物販等の運搬に利用する。

### 得られた 効果

毎朝 家を出るまでに時間がかかり、事業所につく時間  
が不ぞろいであったが、送迎をすることにより作業所開  
始時間に間に合いだした。

### 今後の課題

これからも高齢化により、送迎が必要となってくる。  
高齢者の人数も次第に多くなってくると思いますので送迎を考えています。  
クッキー工場の機械化。  
B型事業所の作業内容について、工賃向上を目指して、利用者にあった仕事探しをしています。



# 総社市地域自立支援協議会 日中活動事業所

【所在地】 岡山県総社市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、  
発達障がい者、難病患者

【日常の活動】

- 総社市地域自立支援協議会 日中活動事業所連絡会主催による研修会（工賃・賃金向上研修）
- 日中活動事業所連絡会の開催（定例会、臨時会等） ■日中活動事業所説明会
- 障がい者啓発イベント「ハートフルそうじゃ」への参画  
（日中事業所連絡会により独自にPR・販売イベントも実施）
- 視察や見学会の開催

## 「障がい者の工賃・賃金向上のための販路拡大・取組みPR大作戦」

【助成額】 15万円

### 実施目的

日中活動事業所連絡会として様々な行事の企画運営を行うとともに、イベント等への参加を通じてPR活動を行い、本会や各事業所の知名度の向上を図りたいと考えます。さらに、PR活動や物販を通じて販路拡大に取り組むことにより、市内の事業所の工賃・賃金向上に資することを目的として実施したいと考えています。

### 実施内容

①11月10日(日)

川崎医療福祉大学構内で開催された『くらしきフォーラム』へ参加し、市内事業所の生産商品の販売を行いました。当日PR用のぼり旗を使用しています。

②11月23日(土)

日中活動事業所連絡会販売イベント(ハートフルそうじゃPRイベント)を開催。

国民宿舎サンロード吉備路の産直広場にて開催される本市最大の農産物フェスティバルに合わせ、各事業所の生産商品の販売、障がい者週間に合わせて開催する啓発イベント「ハートフルそうじゃ」のPRなどを行いました。当日PR用のぼり旗、ジャンパー、テーブルカバーを使用しています。

今後も日中活動事業所連絡会として企画、参加するイベント等で使用していきたいと思っております。

### 得られた効果

各種イベントに参加する際にPRグッズを使用することにより、チーム意識、本会としての一体感がさらに高まったと思われます。また来場者や日頃関わりの少ない事業所間においてもスタッフの識別がしやすくなりました。

### 今後の課題

これまで同様、本会(市内事業所)の知名度の向上、さらに工賃・賃金向上に向けて販路拡大などの取り組みが課題となっています。



# 特定非営利活動法人東備

<http://www.npo-toubi.jp/>

【所在地】 岡山県備前市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、難病患者

【日常の活動】

■「コートピア」（定員29名）

就労移行支援事業、就労継続B型事業、自立（生活）訓練、備前市日中一時支援事業

■「地域生活支援センターパレット」

市町村委託相談事業、指定特定相談支援事業、指定障害児相談支援事業、指定一般相談支援事業、障害児等療育支援事業

■「とうびホーム」（定員13名）

共同生活援助事業

■地域の当事者への支援 ■ピアサポート活動への支援

## 「送迎車両兼作業用車両の購入」

【助成額】 90万円

### 実施目的

現行の送迎では行くことの出来ない地域での送迎ニーズに応じていくため新しい送迎車両の購入を行う。

### 実施内容

当施設での送迎に利用するための車両の購入を行う。(9/28 納車)

### 得られた効果

新たなルートでの送迎が行えるようになったことで新規での利用者さんが増えた。また、送迎を希望されていた方のニーズに応えることが出来、通所回数の増加につなげることが出来た。

### 今後の課題

物価の上昇に伴い工賃の引き上げを行っていく必要がある。大多数の方が基礎年金のみの収入になるため工賃額を引き上げられるよう委託作業の選別、新たな作業の開拓、自主製品の作製などを行っていく必要がある。また、利用者の方の高齢化に伴い作業の提供方法、細分化、余暇となるプログラムの提案なども同時に行っていくたい。

環境面では建物の老朽化に合わせて雨漏りや配管の腐食、施設内ではエアコンの故障など施設内設備の整理が必要になってきている。



# 特定非営利活動法人びいあらいぶ

<https://bealive-fukuyama.org/>

【所在地】 広島県福山市

【対象者】 精神障がい者、身体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

2010年8月から就労継続支援B型事業を行う。主たる対象者は精神障がいですが3障害を受け入れています。定員20名、登録者36名、毎日の通所者は平均19名となっています。福山市の中心部で、公共交通機関を利用して通いやすい立地です。職員8名で有資格者、精神保健福祉士3名、社会福祉士3名を配置し、精神疾患による生活のしづらさや体調の管理など専門的なアドバイスができるよう職員体制を整えています。作業内容も希望に沿って選べるよう種類を多くし、自己決定し、継続できるよう働く力やコミュニケーションの力を引き出す支援を行っています。就労に向かって利用を終了される方が毎年2名ほどおられます。

## 「リターン容器にする為洗浄機と消毒保管庫を購入しシステムを構築」

【助成額】 100万円

### 実施目的

B型事業所として内職作業、リサイクル作業、お弁当製造販売作業を行っている。利用者さんと工賃を上げるために頑張っていますが、工賃アップにはお弁当の食数を伸ばすことが一番です。そのために作業工程を増やし、多くの利用者さんがかかわれるように工夫し、原価を下げることに努力してきました。お弁当作業がお客様のニーズに応え、地域に必要とされる事業所となるようにしていきたいと思っています。地域で活躍し、役に立つことで、利用者さんがあたりまえに働く地域を作ることが、障がいに対する差別や偏見を取り除き、ノーマライゼーションの社会を作る一歩となると考えます。お弁当を通じて社会に貢献できる事業所を目指します。工賃をアップし、働き甲斐のある仕事を提供していくため、必要な機器を購入していきたいと思ひます

### 実施内容

毎日利用者とともにお弁当を手作りで、心を込めて調理、盛り付けし、配達をしています。毎日100食を目標に、昨年度では平均90食お届けしています。現在はプラスチック容器にご飯とおかずを別々に入れて提供しており、その容器代も2個セットで一食分40円ほどかかっています。360円で販売しているお弁当ですので容器代が節約できたら本当に助かります。それと、世界の情勢もプラスチック容器やレジ袋の自粛を打ち出しています。地球の環境のため、温暖化にストップをかけるため、そして限りある石油資源をできるだけ使わないためにも、プラスチック容器の使用を控えていきたいと思ひます。そのためにはリターン容器を使用し、事業所でできるエコ活動に取り組んでいきたいと考えています。リターン容器に変えるためには、食器洗浄機や消毒乾燥保管庫が必要となり、利用者さんも容器の回収と洗浄という作業が増えます。お客様にも容器を廃棄するという手間をお願いせず済むのも大きいと思ひます。新たにリターンという作業が入り、それをやってみたくてという利用者さんのニーズも生まれてきます。ぜひこの機会に、必要な設備を取り入れて、利用者さんの意欲を引き出す作業を作っていくため、また、エコのために実現していきたいと思ひます。この度、建物を建て替える予定の中に、厨房機器に十分な予算を取ることが難しく、お弁当のニーズにできるだけ応えていくことができるよう、工賃アップを目指せるよう機器を整えていき、安心安全な厨房を作っていくと考えています。利用者とともに地域で必要とさせるお弁当屋さんを目指し、頑張っていきたいと思ひます。

## 得られた効果

食器洗浄室ができたことで、これからのお弁当事業が大きく前進します。新型コロナウイルスの影響もあり、現在はまだ、リターン容器への切り替えはできていませんが、これから徐々に取り組んでいきたいと思えます。7月1日からレジ袋の有料化が始まり、一層プラスチック容器からリターン容器への変更が望まれるところです。利用者も食器洗浄機の使い方を今習得しているところです。食器や道具の洗浄ができることで作業時間が短縮され、翌日のお弁当の仕込みや準備に充分時間をかけることができ、安心して次の日を迎えることができます。お弁当が充実することで売上げを伸ばし、利用者の賃金に大きく貢献できると確信しています。みんな毎日の作業に充実感をもって取り組んでいます。

## 今後の課題

4月1日より、リサイクルショップ、食堂喫茶、お弁当、内職の部門が一つの事業体となり、新しい社屋に入り活動を開始しました。利用者のニーズに応えながら、職員が全員助け合い協力して支援に当たっています。これからは、地域の中で必要とされ、なくてはならない事業所になっていきたいと考えています。利用者も地域で生きる一人として、お客様をお迎えし、可能性を拓き、自信をもって自分の人生を生きる力を養って欲しいと思えます。多くの地域の方たちと交流を拓き、利用者、職員ともども差別や偏見と闘い、ノーマライゼーションの社会の実現を目指します。リサイクル品、コーヒーやケーキ、お弁当等、持っているツールをすべて活かして、高齢者も子供たちも、障がい者もみんなが集うこの場所を一緒に作りたいと思えます。



# 特定非営利活動法人きずな

<https://kizuna-hiroshima.com/>

【所在地】 広島県東広島市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、  
発達障がい者

【日常の活動】

- 生活介護事業
- 就労継続支援事業B型
- 日中一時支援事業
- 放課後等デイサービス事業
- 相談支援事業
- 介護タクシー事業

## 「生活介護施設利用者の送迎用車両の購入」

【助成額】 100万円

### 実施目的

送迎用車両が不足しており、また、現在所有している送迎用車両(普通車)では迂回旋回等が困難な送迎ルートがあったため送迎をお断りする等の状況が発生していた。購入する車両の仕様は車いすの利用者様でも安心して乗車できるものにする事で、利用できる人の幅が広がる。

### 実施内容

多機能型事業所きずな(生活介護)に車いす車両を  
購入

【購入車両】スズキ エヴリィ 一体型スロープ付き  
(室内高1,410 mm 室内長1,510 mm)

2019年10月発注

2019年12月20日納車すぐに運行開始



### 得られた効果

利用者様に実際に乗ってもらうと、今まで車いすから降りて乗車してもらっていたが、車いすのまま乗車できるようになり、本人の負担は軽減した。狭い車道も通ることができるようになり、送迎も安心安全にできるようになった。

### 今後の課題

利用者様は増えているが、受け入れするための建物や車両、職員の確保が課題。

# 特定非営利活動法人手と手と手

<https://happy-tetotetote.amebaownd.com/>

【所在地】 高松市

【対象者】 知的障がい者、発達障がい者、身体障がい者

【日常の活動】

- 放課後等デイサービス事業
- 短期入所事業
- 就労継続支援B型事業
- 生活介護事業
- 年に1度、高松市民に向けて、福祉映画上映会や講師をお招きしての福祉講演会を企画・運営

## 「身体障害者の車いす対応車両」

【助成額】 100万円

### 実施目的

地域の重度障がい児者を福祉車両にてお迎えに行き福祉サービスを提供します。

高松市西部御地域は以前より福祉事業所が少なく、地元の障がい者は車で何時間もかけて遠方の福祉事業所を利用したり又、福祉サービスを受けられていない障がい者の方々が複数いらっしゃいます。特に身体障がい者で車いすを使用している方は事業所に車椅子対応車両が無いのでお迎えに行けず自宅で過ごされてケースが見られます。今回、助成して頂いた車椅子対応車両を使用して重度障がい者をお迎えに行き福祉サービスを提供する事で自立や社会参加に繋げていきます。

### 実施内容

- 高松市西部地域に居住している車椅子を使用している障がい者・児の自宅への送迎に車椅子対応車両を購入し使用します。
- 特別支援学校等に車椅子を使用している障がい児のお迎えに使用する。
- 地域の行事やバザー等の地域交流の場に車椅子を使用している障がい児者が参加する場合は車椅子対応車両を使用して送迎し参加します。

### 得られた効果

車椅子対応車両を購入する事で、現在、車椅子対応車両が無い為にお迎えに行けず福祉サービスを利用できなくて自宅で過ごされていた障がい児者の方々が自宅に車椅子対応車両でお迎えに行く事で事業所に通所できるようになります。

事業所に通所する事で児童デイサービスなら自己スキル獲得の為に療育支援が受けられたり地域の行事に参加したり美術館や水族館、公園等に行く事で余暇活動の幅が広がったり社会参加や地域住民との交流に繋がります。

生活介護に通所する事で重度障がい者が創作活動やレクリエーションに参加し日中活動の充実が図れます。また、身体を動かす活動に参加する事で体力の向上や健康維持に繋がります。

就労継続支援B型事業に通所する事で将来の一般就労に向けて就職の為にスキルを磨くことができます。又、事業所で働く事で工賃を得る事ができ、将来の自立に繋げて行く事ができます。

今まで自宅で過ごしていた重度障がい児者が社会参加する事で介護者の負担軽減や地域の活性化や障がい者の社会参加の促進が期待できます。

## 今後の課題

今後法人として高松市西部地域で、障がい児者に福祉サービスを提供していきます。現在、児童デイサービスを利用している障がい児も進行性の病気を抱えていたり、現在は手引き歩行をしているが将来的には車椅子を使用しなければいけないケースもでてきています。

又、今回助成して頂き車椅子対応車両を購入する事ができましたが地域で自宅に過ごされている車椅子対応車両を必要としている障がい者の方々がいる事を考えると今後法人として送迎車両を購入する場合は、今回と同様に車椅子対応車両を選択していかなければならないと考えていますが、車椅子対応車両はどうしても高額なので今後の車両購入時にどうしても価格の面で購入が難しい場合も考えられます。



# 特定非営利活動法人くまもとスローワーク・スクール

<http://www.kumamoto-sws.com>

【所在地】 熊本県和泉町

【対象者】 発達障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

「放課後等デイサービス」スクーターボード、スイング、トランポリンなどを、児童が安全に配慮しながら、好きな感覚刺激を探し、それと同等・同質の刺激を日常生活に探し、ストレス対処の1ツールとして使ってもらおう。同時に体力作りが社会参加の最重要の土台になると考えているので、感覚統合療法の中でも固有覚ニーズを満たす、大きな筋肉を使う運動を重視していきます。

「フリースクール」学校では、弱い立場にある子が対人関係トラブルに多く巻き込まれてしまい、大人がトラブルを収める必要がありますが、トラブルが収まりにくい学校からの回避を選択した子の居場所を準備していく必要があり、同時に自分が打ち込めることを探すための時間の確保も必要で、週2回開催しているフリースクールは子どもたちにとってかけがえのない社会資源と考えています。

「夜間学習支援室食事付き」は週1夜間に開催していますが、ひとり親家庭の子、母親が外国籍の子、学校に居場所のない子が温かな食事を一緒に食べながら、勉強や遊びを大人と一緒にいき、社会に出る勇気を少しでも充電できる安全基地を目指しています。

## 「里山型フリースクール、夜間学習支援室、放デイの送迎車購入費」

【助成額】 71万円

### 実施目的

長年学んできた臨床心理学の知見をもとにして発達障がいやうつ病など、脳機能にハンディキャップを持つ児童 対象に、心理リハビリテーションのケアサービスを実施し、同時に社会的ひきこもりや不登校の方への就労準備・定着支援及び学習の積み重ねの支援活動を行なっています。加えて、ひとり親家庭など、社会とのつながりが希薄で、おとなとの関係が不安定な児童に対して夜間の学習支援（食事つき）を実施することで、社会とのつながりを作り直す活動を行なうために車両を必要としています。

### 実施内容

フリースクールでの車両の用途

屋外活動で、体育館、図書館、公園、施設見学などに行く場合に車両を利用しました。同時に、地域の祭りや介護事業所などに赴き、多世代交流の機会を作り、参加した子どもが日々の充実をより高めることができました。

夜間学習支援室での車両の用途

活動で夜間の送迎のため、車両を利用しました。また、日ごろ親御さんと遠出する機会のない子に、レジャー体験を行ないに天草市に行きました。

放課後等デイサービスでの車両の用途

里山の伸び伸びできる環境に赴き、学校の疲れを癒してもらいました。また、町に住む子が五感を使った遊びを通じて様々な感性をはぐくむために自然の中にお連れしました。同時に小学生には運動する場、中学生には対人交流の場、高校生は職業準備体験の場にお連れしました。

## 得られた効果

これまで利用していた車両が長距離走っていたこと(13万キロ)、年式が古かったこと(2007年から放課後等デイサービスの送迎中に2回故障し、JAFを呼ばなければいけない状況を体験した子どもたちから「早く新しい車を買って」と言われており、その希望を叶えることが出来、安心安全な送迎を実施することが出来ています。親御さんたちからも不安の声が上がっていて「何とかなるといいですね」と言われていましたが、車両購入で「これからは安心ですね」との声かけを頂きました。

長距離の運行もスムーズになり、山道などのワインディングロードも緩やかな運転が可能になり、車酔いしやすかった子たちも嘔吐の回数が減ったと思います。

## 今後の課題

- 玉名市地域だけでなく、自分たちのメソッドを熊本県内に拡大していく必要を感じています。
- 臨床心理学を基にしたソーシャルワーク、特にトラウマティックストレスが要因と考えられる子どもについて若者を抱える地域・学校に子どもたちの傷つきやすさから来る反動的な行動であるとのガイダンスを幅広く実施していく必要を感じています。(トラウマインフォームドケア)
- その子たちには従来の指導的かわりは百害あって一利なしで、ケアを念頭に置いた粘り強い関わりが必要になることを日々の実践を積み重ね、幅広く応用できるケア体系を構築していく必要を強く感じています。そのためには、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭、特別支援コーディネーター、医療機関の臨床心理士など、多く子どもたちに接する方々のネットワーク作りを急ぐ必要があり、そのために本年の時間を多く使う所存です



# 一般社団法人埼玉障害者自立生活協会

【所在地】 埼玉県ふじみ野市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、  
難病患者

【日常の活動】

- 機関誌「通信」発行事業 ■当事者が活動するペーパーサート巡業団「山にこもりましょう」
- 障害者制度改革 埼玉セミナー（公開学習会） ■かつぼ運営協議会事務局
- 分け隔てられず共に学び・育つことを支援する連携活動（就学進学ホットライン年2回）
- 「でるでるCLUB」 ■介助ネットワーク ■他団体との連携活動

## 「重度障害者の地域生活支援における初任者研修」

【助成額】 44万円

### 実施目的

高齢者や障害者が入所施設ではなく、地域の中で暮らしていることについて具体的な報告を各地域で行い、日常活動の中では気付かない「なぜ共に暮らすのか？」という課題を掘り下げる。また、やまゆり事件に見える優生思想や障害者排除について、それぞれの地域や団体で報告することで、あらためて自分たち自身に問い直し、今後の活動につなげていけることを目的とする。

### 実施内容

- 5月26日、シンポジウム「ハコのない施設になっていない？」を開催。  
当協会から3団体の報告を受け、地域で暮らすこと、今年度の事業の課題を挙げた。
- 理事会において、事業名を「ハコのない施設になっていない？地域巡業」とし、9つの地域と団体を抽し、見学と報告を行ってもらい、参加者との意見交換を行うことにする。3つのテーマは「コミュニケーションをめぐって」「暮らし方っているいろいろだよ」「働く場からのかかわり」とする。
  - ① 2019年11月30日（土）ふじみ野市西公民館（報告：NPO法人上福岡センター21）  
テーマ「GH以外の知的障害を持つ人の一人暮らしやGHサテライトの話」
  - ② 2020年1月21日（火）所沢市こどもと福祉の未来館（NPO法人とことこ）  
テーマ「一人一人のコミュニケーションをさぐる 使わずに終わった知的障害を持つ人の重度訪問介護」
  - ③ 1月27日（月）さいたま市尾間木公民館（NPO法人のらんどあぐり（農））  
テーマ「社会で働ききってからの福祉のかかわり働く場と暮らしをどう考えたらいいの」
  - ④ 2月4日（火）草加市めだか工房（NPO法人めだか）  
テーマ「家族全員が施設で暮らす経緯とその後の地域とのかかわりは？」
  - ⑤ 2月6日（木）鴻巣市市民活動センター会議室C（NPO法人あん）  
テーマ「重度障害者の一人事業所から始まった地域生活とコミュニケーションの取りづらいい人の課題」
  - ⑥ 2月14日（金）生活クラブ生協越谷生活館（NPO職場参加をすすめる会）  
テーマ「重度障害、施設・病院利用、ひきこもり 老化・・・いまここからの「職場参加」の具体例と制度」

⑦ 2月22日（土）熊谷市障害福祉会館（NPO法人遊トピア）

テーマ「障害当事者がいるということ 職場に介助者がいるということ」

⑧ 2月27日（水）川口市北芝公民館（NPO法人ヒールアップハウス 晴れ晴れ）

テーマ「はたらかせないで・働いちゃいけないから忙しいほうが調子がいい・・・に変わるまで」

⑨ 3月5日（木）川口市 公民館（NPOリンクス ねこのて）

テーマ「バリアフルでもバリアフリー自分の家に住み続けること。」⇒ コロナの影響により中止

■3月中から末日今回の事業のテーブル起こしを、様々な人に依頼して終わらせた。この仕事をお願いするにあたり、新しい関係も作れ、視覚障害を持つ学生にメールでやり取りして仕事をお願いするなど、新たな取り組みもできた。

■全203頁にも及ぶ報告集を90部完成。しかし、全体会が開催することができず、手渡しができなかった。また、報告者に確認していただく作業などもあり、4月末の郵送になってしまった。

## 得られた効果

当初の成果と考えていたのは、県内に散らばっている団体間をつなげ、職員やメンバー同士が知り合い悩みを出し合えるきっかけづくりだった。しかし、実際に巡業を始めてみると、予定していたように、報告者が同じテーマの巡業に参加するということが困難であった。しかし、いくつかの別の成果があった。

一つは埼玉県の職員が参加してくれたことである。報告者ではなく参加者となり、一緒に現場を見学し、報告を聞き、実際の障害当事者の生活を見るだけでなく、当事者、職員、参加者である親やボランティアの人の声を生で聞いたことである。年に一度県と話し合いを設けているが、県の職員が会議ではイメージでないこと、具体的に障害者が地域でどんな活動をし、どんな生活をし、かかわる人は何を考え、問題や課題は何なのか？が伝わりやすかった。県としても、一般企業が福祉に参加してきたことで、「事業所」ばかりを見てきたが、地域で暮らすことはそれだけではないと感じていた矢先のこの事業だったので、積極的に参加をし、数字ではない具体的なものを知ることができたことは大きな成果だった。

また、当初地域が離れた団体間の横のつながりを目的としていたが、個々の人々がどう暮らしているのか？なぜここで働いているのか？何を課題にしているのか？また、具体的にどう暮らしているのか？が、第三者に報告することで、より分かりやすく報告されるために、実際は報告をする団体の中でさえ、日常的な業務に追われ、組織が大きくなっていて情報が共有されていないことが分かった。まして、制度が次から次へと変わる中、現場の職員でさえ、よくわかっていないことも明確になってきた。これは、県の担当者も同じで、国の制度なので、あまり具体的に説明ができないということもはっきりした。

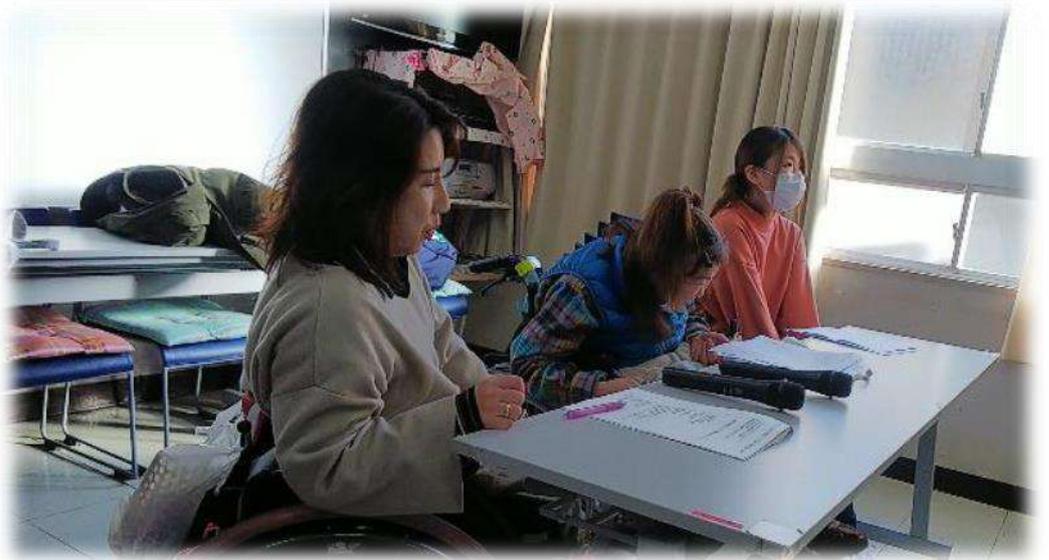


## 今後の課題

今回の地域巡業で、具体的な暮らし方は報告してもらうことができた。この中から、制度との関連を2020年度は小さな勉強会を行えると計画しようとした矢先に、新型コロナウイルスにより、勉強会や会議など、3密の制限がかかってしまい、今年度の事業の予定が狂ってしまった。

今回の地域を回るという形は、大きな意味があった。本当に現場の人たちは、日々追いかけるような忙しさの中で活動している。地域を離れていくということが困難だということが分かった。また、小人数であることは、お互いが近い関係になり質問や意見、思うことや疑問が明確になり、全員が発言できる機会が持てる。これは課題が表に出ることなので、さらに効果を上げることが分かった。今後もこの形を継続し、具体的な制度と実践している団体の報告と、できれば実施している市町村に声をかけて、県も呼びながら一緒に勉強をしていけるような形を作っていきたい。

最悪、当協会の事務局が駆けずり回るだけになったとしても、第三者という立場は、身内で会議をやるよりも、丁寧な報告がされる。誰もがわかりやすい実態をまとめたり話すことで、いい事例がまとめていけると思う。それらを、他市町村や県、県を通して国に要望していけるまでになったらいいと考える。



# 京都NABA

【所在地】 京都府京都市

【対象者】 摂食障がい者

## 【日常の活動】

月2回のミーティングを行う。市民公益活動施設の一室を一時的に借り、摂食障害本人のみが集まって分かち合い（いいっぱなし・聞きっぱなし=話したい人が話したい事だけを話し、周りに人はそれを黙って聞く）を行う。2019年4月現在、原則第1.3金曜の19:00～20:30の90分を分かち合いに充て、20:30～21:00の30分程度でビジネスミーティング（次回ミーティングや他団体および外部イベントの紹介、当団体が主催・協力する企画についての報告・相談・連絡、共有連絡事項の確認など）を行う。フェロシップ（希望者のみ集まってミーティングの前後、または別日にお茶をしながら雑談すること）を行うこともある。

## 「摂食障害当事者を対象とした一泊二日宿泊ワークショップ」

【助成額】 29万円

### 実施目的

摂食障害の治療は対症療法になりがちで、本人は治療により一旦は小康状態となるものの、社会復帰への足掛かりをつかめず、孤立して再発を繰り返すことが多くある。こうした現状に対応する資源としてセルフヘルプがあるが、距離や時間などの都合で普段のミーティングに参加できない人も多くいる。本事業では、広く関西圏の摂食障害本人を対象に、回復者による講演やワークなどを盛り込んだ宿泊ワークショップを開催する。食の問題を抱え、対人緊張や強い不安の中にいる本人にとって、人と寝食を共にすることは非常に高いハードルである。しかしだからこそ、仲間同士で一泊を過ごせたという経験は大きな自信となり、回復・成長し、自立した生活を送れるようになるきっかけをつかむことができるものとする。

### 実施内容

#### ■ 事業企画会議

2019.8.2、9.6、10.4、11.26、の各ミーティング後ビジネスにて、京都ナバのメンバーで会議を行った。事業終了後の2020.2.7のミーティング後には、振り返りと感想などシェアタイムも設けた。会場はひとまち交流館にて。

#### ■ 宿泊ワークショップ

①目的・内容…摂食障害者の心身の回復・成長が目的の一泊二日宿泊ワークショップ。本人たちが安心して過ごせることを第一に、ゆったりしたプログラムと、食事や入浴など可能な限りその時その時で本人が自身で選択できるようにした（※そのため会場変更によって、食事（持込み可能、外食可能）の選択肢や入浴（館内共同浴場、館外銭湯）の選択肢を増やした）講演会には、東京のNABAより経験豊富な回復者2名を招待、当事者ならではの知見から回復に必要なもろもろの講義を依頼。また、非言語アプローチとして、同じく回復者の当事者によるボディワークを行った。ゲスト講師には宿泊もお願いし、時間を最大に活用して、参加者との交流・親睦を図ってもらった。

②時期・場所…2020年1月18日～19日 京都教育文化センター

③プログラム…1日目 自己紹介、体験談、テーマ別ミーティング 2日目 ボディワーク、全体ミーティング  
※ボディワークは「タッピングタッチ」を行った。

④講演会講師:鶴田桃工、高橋直樹（摂食障害回復者、東京のNABAより招聘）

ワーク講師:猿渡京子（神戸で長年セルフヘルプ活動「名前のない花たちへ」等を行っている依存症回復者であり精神保健福祉士でもある）

- ⑤参加者…宿泊参加 16 名、日帰り参加 3 名(摂食障害本人)
- ⑥運営スタッフ…京都NABAメンバー2 名(アルバイト賃金あり)を中心に、経験の長い参加者が補佐した。
- ⑦広報…京都NABAのブログ上で告知。および関西の主要な自助関連施設(大阪セルフヘルプ支援センター、京都府精神保健福祉総合センターなど)へメールにて案内を送信。参加者や仲間内で各施設や病院、ミーティング会場などへ自腹で印刷したチラシを配布して告知した。

**得られた効果**

振り返りの際にも、仲間と過ごせて楽しかったという声が多数あった。中には東京でのワークショップにも参加をすでに検討している人も居た。ゲスト講師 3 名にも宿泊・ミーティングのファシリテーターも担ってもらったことよって、また長い時間共に過ごした仲間との分かち合いで、普段のミーティングでは向き合えない深いところまで自分と対峙でき、深く実りある内容となった様子がかがえた。感情の揺れが大きく現れた参加者も多く、終了後の解散時点で号泣したり晴れやかな表情で個々に連絡先の交換など行っている方もいた。事前に複数の方から「食事や人と寝泊りするの不安」という問合せや、そのことでキャンセルも考えていた参加者もいたが、一泊を経験することができ“自信がついた”と仰っていた。遠方(静岡や福岡)からの参加者は、地元のミーティングにこの経験をぜひ持ち帰り皆とシェアしたとのことで、その旨のメールなども早速いただいた。また、ゲストによる講演は一般参加も可能だったため、ミーティングに来たことのない方の参加が複数あり、中でも当事者の方は早速、京都ナバも含めセルフヘルプへの参加を始めたそうだ。これらのことから、本事業によって参加者の方々に摂食障害から回復・成長するためのきっかけを掴んでもらうことができたものと考えている。

**今後の課題**

京都ナバのメンバー含め、ミーティングは長く参加しているがワークショップなどイベントは初めてというメンバーも多く、ゲスト講師の方々へ講演やワーク以外でもご助力いただくことが多い内容となった。今後このようなイベントをやる際には、運営の経験値ある仲間の協力も依頼する必要があると思われる。また、参加費のみで収支をまかなえる程度に、宿泊ワークショップの効果効用を外部に知らせることができれば(メジャー度を高めれば)継続開催が見込めるのではないかと考えるが、外部への周知は困難で、このことも検討していく必要がある(特に効果を数値で謳うような成果の発表が難しいため)



# 一般財団法人カナウ

<https://www.yumenohako.biz/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者、  
身体障がい者

【日常の活動】

- 就労継続支援B型
- 放課後等デイサービス
- 居宅介護／同行援護／移動支援
- ゆめのはこプロジェクト
  - ・アートイベント(年1回)
  - ・School & Salon(毎週末)

## 「文化芸術活動拠点整備事業」

【助成額】 100万円

### 実施目的

人には誰にでも「自分だから出来ること」「自分にしか出来ないこと」があります。それを見つけ、育み、価値ある社会参加への可能性を高めることがアートの力(音・色・心の健康)で出来るのです。この事業では今既に障がい児者と共に活動しているプロミュージシャンやアーティスト、アスリート団体をウェブサイトで発信し広く紹介することで多くの出会いに繋がり、「好き」を楽しみながら幸せを共有する新しい社会づくりを目指します。



### 実施内容

あーとすぺーす童夢にて毎週金曜日に会議と研修を重ね、下記内容を企画し実施開催に繋げた。

- 三者連携の立ち上げイベントの開催:『蔵ものがたり』を神戸酒心館にて開催(資料添付)
  - ・スペシャルオリンピックス日本・兵庫…20周年記念関連催事として共催。団体紹介体験コーナー企画設置。
  - ・アンサンブルピアチェーレ…ハートフルコンサートへの企画参加協力。障がい児者とのライブ開催。
- ネットワークづくりとウェブサイトの立ち上げ(三者紹介など):上記イベント開催を経て7月頃より着手
  - ・8月より3団体各々で紹介内容等をまとめ、デザイン構成を始める。
  - ・1月から最終校正のため一部公開する。
  - ・3月末日には正式に一般公開し、三者の紹介(ネットワークリンクサイト)ページ開設。
- ハートフルコンサートの開催:アンサンブルピアチェーレ協力団体による無料コンサート(毎月第2日曜日)
  - ・地域の高齢者や障がい者を対象に、ご支援頂くボランティアグループと共に、プロミュージシャンと触れ合う温かい場を提供し、今後は若年性認知症の方達への居場所としても開放。
- ハートフルショップゆめのはこ出店:コープ六甲1階にて月1回開催
  - ・寄附社会のベースづくりを目指す。
  - ・地域コミュニティグループ「もく・きん・どう」と、クラフトショップ出店グループが連携し、手作り商品を販売。売り上げの1割を寄附する(仕組みを提案、実施)。

## 得られた効果

このたび貴財団の助成金をもって、障がい児者の文化芸術活動の拠点としての仕組みを作り上げることが出来ました。立ち上げて企画したイベントでは音楽演奏、作品展示、体験コーナー等が融合した、子どもから高齢者や障がい児者まで、皆様と運営スタッフやサポーターも一緒に楽しむことの出来る、心の通い合う温かいものになりました。また、その場での出会いから、地域活動「灘っ子集まれ！～クリスマスコンサート～」への参加が決定し、灘区民ホールにて子ども達と障がい児者が一緒に楽しめるクリスマス会場特設ステージの企画設営が実現しました。障がい者の作品展示や音楽演奏にプロが関わることでの完成度の高さや、参加型ステージ等到大変ご好評頂き、今後毎年開催する運びとなりました。

ウェブサイトのほうも無事公開出来、皆様に楽しんで見て頂きながら、三者の活動紹介等の情報発信を続けてまいります。

また、この活動を継続していくために必要なマンパワーにつきましても、地域での居場所づくり活動を見守って下さるボランティアグループにご協力頂けることになりました。

そして、寄附社会ベースの仕組みを構築出来たことで、ゆめのはこ活動の基金の輪を今後も広げてまいります。

## 今後の課題

この一年の成果として、今後も芸術活動のプロが主体となって「共に生きるを楽しむ」社会参加の形を提案し続けていくために、

### ①イベント等の催事において障がい児者の社会参加の場を創出

…「灘っ子集まれ！」企画を毎年の継続事業として展開し、夢と希望、そして若い世代を通して障がい者への理解を深める

### ②ネットワークの活用。

…専従スタッフを確保し、働く場としてウェブショップを開設することで、メンバーオリジナル商品の販売窓口とする予定

### ③人材育成と基金窓口の設置

…新型コロナウイルス感染防止対策で現在も思うような活動には至っておらず、PR活動も含めて練り直している段階。



# 社会福祉法人神戸いのちの電話

<http://kobe-life-port.org>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 電話相談者

【日常の活動】

兵庫県より年間300万円の補助金を頂く。対象はボランティア相談員の継続研修に係る経費、公開講座経費、深夜帯のための夜間電話相談室の維持経費の補助。しかしながら、これらの活動は300万円では実施できないので会費や寄付を集めて実施している。神戸市より年間150万円の補助金を頂く。対象は新規相談員養成講座に係る経費。兵庫県と同じくこれだけでは実施できないので会費、寄付を集めて実施。県や市の補助金は厚生労働省等からの自殺防止対策基金を原資とする。

## 「ボランティア相談員の負担軽減」

【助成額】 46万円

### 実施目的

「神戸いのちの電話」は 365 日 24 時間、自殺予防を目的とする相談電話を受けることを目指しているが近年、相談員の高齢化や様々なボランティア活動の有り様から実働数は減少傾向にある。また新しく相談員として活動を望む方を対象にした養成講座も受講生が少なく、先細りの印象は否めない。これら最近の状況からボランティア相談員の経済的な負担の軽減によって、実働相談員数を確保・増加させたい。

### 実施内容

ボランティア相談員は、年間 24 回以上（深夜帯当番を含む）の電話当番という活動（奉仕）をしながら自らの「話を聴く力」をより向上させるために毎月一回の継続研修を受講しなければならない。その為に受講料（研修費）年間 4000 円の負担を強いられている。

また当法人の運営は兵庫県、神戸市からの補助金では到底足りず、会費や寄付で賄っているのが現状である。昨今の情勢から企業等からの寄付の増加は見込めず、貴重な時間を割いて活動に従事する相談員自身がそれぞれ維持会費として 1 人につき最低 3000 円の負担を余儀なくされている。

この度、貴財団より賜った温かいご支援を、ボランティア相談員が負担する一人当たり 4000 円の研修費に還元することで、目に見える形で経済的な負担の軽減を果たすことができた。

### 得られた効果

明らかに目に見える形での援助として実感があり、ボランティア相談員からは大変喜ばれた。

多様なボランティア活動がある中で、このような「地味な」活動を長年にわたり続けるにはエネルギーを要するが、相談員の疲弊感は確実に減少したと考える。また、退会を希望する相談員の引き留めにも有効であった。

日本全体の先が見えない状況で経済的・金銭的な負担軽減は、実働する相談員はもとより現在休会中で復帰を目指す相談員にとっても明るい材料であることは間違いないと考える。

窮屈な世の中で生き辛さを抱え自殺さえも考える人のためにも、相談電話は 365 日 24 時間稼働することが理想である。(神戸いのちの電話では現在、第 2,3,4 金曜日と毎土曜日の深夜帯を実施)

日本における自殺者数は減少傾向にあるものの、若年層の自殺者数については横ばいであるが、若年層が相談したいツールは実際にお互いの声が聞こえる「電話」ではなく、SNS等の「つながり」と推測される。日本いのちの電話連盟でもSNS等を活用した相談に取り組もうとしているがなかなか難しい状況である。当法人でも必要度は十分に認識しているものの、日々の活動が手いっぱいであり、またボランティア相談員の高齢化の影響で新しい媒体への順応度も低く、研究実施に至るには程遠い。相談員の匿名性、秘密に保持という制約もあるが、若年層の相談員を増やしていくことがこの活動、団体の将来にかかっている。



# 神戸市難聴者協会

<https://kobeshi-nancho.webnode.jp>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 聴覚障がい者

【日常の活動】

- 1、難聴者・中途失聴者の社会参加促進のため事業を実施。  
要約筆記奉仕員養成講座（～2013年まで） 要約筆記者養成講座（2016年度～）  
要約筆記派遣事業（～2017年度） 要約筆記登録者研修  
協会独自事業として、難聴者手話教室（コミュニケーション教室）を8年間継続。
- 2、全国の同障団体と情報交換、交流を図る場として全難聴主催行事への参加・協力。
- 3、情報交換・教養向上のためのサークル・文化等の集いを行う。サークル活動として、ふれあい談話室、踊ろつ会、囲碁同好会、手芸サークル、要約筆記ワーキンググループ。
- 4、協会誌「神戸市難聴者協会 協会だより」を月1回発行

## 「難聴者・中途失聴者対象の『聞こえの相談会』および『きこえの相談と交流会』」

【助成額】 16万円

### 実施目的

原則隔月1回（午前・午後）、相談日を設け、当協会の支援団体である要約筆記サークルこうべに協力いただき、ボランティアで相談会でのノートテイクをしていただきます。実績をつくった上で、同障者によるピアカウンセリングは、孤立しがちな難聴者にとって必要な事業であることを行政に提言し、事業化できるよう要望していきます。

### 実施内容

#### 【聞こえ相談会】

2019年 3月23日（土）神戸市立総合福祉センター内 神戸市難聴者協会事務所

2019年 5月25日（土）神戸市立総合福祉センター第3研修室

2019年 7月28日（日）神戸市立総合福祉センター第4研修室

2019年 10月26日（土）神戸市立総合福祉センター第5研修室

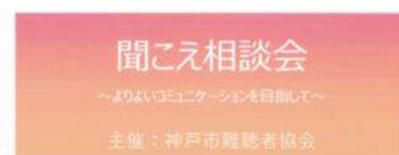
2019年 12月 7日（土）神戸市立総合福祉センター第4研修室

神戸市障害者福祉センター会議室C

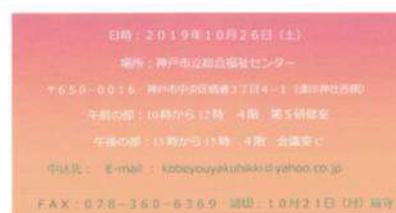
#### 【きこえの相談と交流会】

2020年 3月28日（土）神戸市障害者福祉センターBC会議室

★新型コロナウイルス感染拡大防止のため、期日未定の延期



聞こえにくいことで困っていませんか？  
よりよいコミュニケーション方法の工夫は？質問されていること、誰かに聞いて欲しい事はありませんか？  
私たちが聞こえにくいですが、下記の時間、要約筆記者と一緒にお待ちしています。相談内容は厳密に守ります。事前申し込みをお願いします。



## 得られた効果

対個人への相談ということで、障害者手帳を持たない軽中度難聴者の切実な思いを知ることができました。遠い県外からの相談者もあり、改めて当事者が相談できる場の必要性を感じました。

福祉の支援制度の狭間で苦しむ方へのアドバイスもできたと思います。

障害者手帳に該当すると思われる相談者には、指定医療機関への受診、必要な手続きなどの説明をすることができました。相談を受けた中で、とにかく誰かに聞いて欲しいのだなという印象が強く残っています。口にできなかった思いが溢れてきて、時間をオーバーすることもありました。

相談を重ねていく中で、最終開催は、広く市民に参加を呼びかける「きこえの相談と交流会」を企画し、講師の確保・後援名義の使用許可・チラシ印刷まで完了しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、期日未定の延期とさせていただくことになりました。

当協会のホームページの掲載をしたことにより、次回の相談会の問い合わせや、その他の問い合わせも受けるようになりました。

## 今後の課題

相談を受ける相談員自身が、現在の福祉支援の内容・聴覚障害者の判定基準を知っておく必要性を感じました。障害者手帳を取得してしまうと、取得できないことで悩んでいる方の対応が、きちんとできにくいという実態もわかりました。相談者に寄り添っていく形の相談体制を整えていくようにしていくことが必要だと思いました。

行政では、障害者地域生活支援センターなどへの相談をするようにと言われていますが、やはり当事者団体として、相談者と真摯に向き合っていくことの必要性を感じました。今後も今回の経験を生かし、行政へ当事者が対応する相談事業の必要性を要望していくことが課題になると思います。

**きこえの相談と交流会**  
“まだまだ知らない難聴の世界”  
—知ろう 学ぼう 明日を笑顔で過ごすために—

なんだけ最近、テレビの音が聞きづらくなったな  
家族との会話もしづらくなってきた  
大きな声で話しかけられると恥ずかしい  
認知症と難聴の関係は？  
難聴の選び方がよく分からない

聞こえにくくても笑顔で過ごせる方法があります。私たちの経験が役に立てれば幸いです。会場には聞き取りやすいセアリングリブを設置しています。また、要約筆記（録の内容を文字化して映し出す）が付きます。ご家族が聞こえにくくなった方も気軽に参加ください。

開催日：3月28日（土）13時～16時 受付：12時半～  
会場：神戸市立総合福祉センター 4階  
障害者福祉センター B・C会議室  
講師：中川 良雄氏  
公認心理師・特定社会保険労務士・認定補聴器技能者  
（一社）全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 補聴器課対策部長  
展示：補聴器・補聴補助機器など（株）神戸セアリングセンター）  
お申込み・お問い合わせ：神戸市難聴者協会 FAX 078-360-6369  
E-mail: kobeyouyaku@kkl@yahoo.co.jp  
お申込み締切：3月20日（金）先着60名 ※申込書は裏面

主催：神戸市難聴者協会 共催：要約筆記サークルこうべ  
後援：神戸市  
社会福祉法人 神戸市身体障害者団体連合会  
公益財団法人 木口福祉財団  
一般社団法人 日本補聴器販売店協会  
協力：（株）神戸ヒヤリングセンター

# 神戸カンファレンス

【所在地】 兵庫県西宮市

【対象者】 □唇□蓋裂を持つ子どもとその家族

【日常の活動】

1年に3回開催されるカンファレンス、1年に1回開催するサマーキャンプ、□唇□蓋裂・治療についての啓蒙冊子作製

## 「口唇口蓋裂治療の向上と子どもの育成・家族のサポートを目指して」

【助成額】 60万円

### 実施目的

口蓋裂の病態の啓蒙とこの治療に関わる医療者の治療技術の向上を目指している。

### 実施内容

■神戸市立自然の家にて口蓋裂医療キャンプを開催(2019年8月3日から4日)

約130人の参加者があり口蓋裂治療についての話し合いが行われた

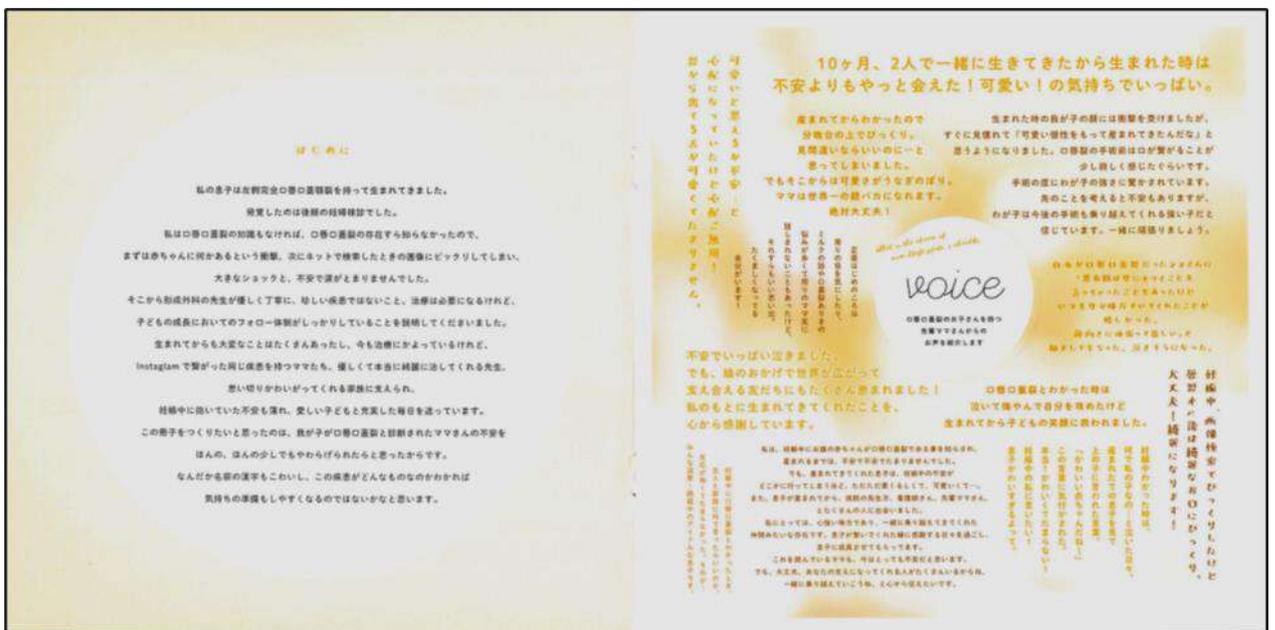
■口唇口蓋裂・治療についての啓蒙冊子を500部作製

### 得られた効果

口蓋裂の病態と治療法についての理解が少しずつ広まってきた。

### 今後の課題

さらに幅広く口蓋裂の実態をいかに広報するのか。  
団体メンバーの高齢化。



# 一般社団法人アートスペースからふる

<https://art-colorful.com/asobiba/>

【所在地】 鳥取県鳥取市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、身体障がい者、  
発達障がい者

【日常の活動】

アート制作、オリジナルグッズ制作、アートレンタル、画像データ販売、アート教室、ワークショップ開催  
ギャラリー運営(常設展示・貸し)

## 「障がい者アートを広め、社会的包括を実現するためのHP制作」

【助成額】 46万円

### 実施目的

HPを制作することで私たちの取組と障がい者アートの魅力や可能性を広め、工賃の向上に繋がると共に、社会的な困難を抱える方々の社会との繋がりを創出し、アートの力で一歩踏み出してもらおう機会とする。

### 実施内容

#### HP制作

お知らせ、理事長メッセージ(アートの持つ可能性と障がい者の可能性について)、法人概要、アーティスト紹介、アーティスト作品ギャラリー、アートレンタルについて、データ販売について、オリジナルグッズ販売について、アート教室「アソビバからふる」について、ギャラリーからふる(常設展示・貸しギャラリー・貸し会議室)について、コミュニティスペースからふるについて、適応指導教室すてっぷとの連携について・商店街活性化の取組について一部上場企業にてプロダクトデザインをされていた方にプロデュースとデザインを依頼

### 得られた効果

関係者や取引先、行政など外部から要望が多かったHPを制作することができた。

アーティスト本人、関係者は多くの方に見てもらえるということで大いに喜んでいる。

公開したばかりなので波及効果にはまだ言及できないところがあるが、アーティストや作品、事業所の様子を知ってもらうことができ、障がい者アートの魅力や可能性を広めることができる。

それにより、工賃の向上につながるとともに、社会的な困難を抱える方々と社会との繋がりを創出し、アートの力で社会の活性化に寄与していくきっかけとすることができる。

### 今後の課題

HPアクセスの増加とネット販売の増加。

アートに取り組む障がい者や不登校者、高齢者が増え、よりインクルーシブな場として発展していくこと。



# 岡山県難病団体連絡協議会

<http://www.okanankyo.org/>

【所在地】 岡山県岡山市

【対象者】 難病患者

【日常の活動】

- 難病相談支援センター事業に係る「ピア・サポート相談事業」の委託を受け、ピアサポーターとして難病患者やその家族等の相談に応じる。
  - ・岡山県・岡山市よりの委託を受け、岡山県全域のピア・サポート相談を行う。
  - ・主に事務局での電話相談、面談相談。計画的に保健所等に出向いての出張相談
  - ・岡山県難病医療連絡協議会と連携し医療相談の実施
  - ・就労支援事業活動      ・福祉サービスの情報を提供し、連絡同行支援活動
- 団体総会    ■難病関係研修会や岡山県等主催の会議への職員の参加
- フォーラム年2回(医療関係者、行政、福祉等の講師を招いての講演会等)
- 交流会月1回位程度(若者交流会や個人会員の方が集まる交流会を適宜行う)
- 上級ピアサポート研修会開催(今年度1講座5回 昨年度は2講座10回)
- 難病キャンペーンウォーキング(難病啓発事業①)
- 県議会議員研修会や企業等での難病についての講演を行う(難病啓発事業②)
- 就労支援(相談受付。外出する訓練で居場所提供と自由にパソコン使用)
- 他、昨年度は難病ネットワーク学会に参加しシンポジウムで発表      ……等

## 「難病若者交流会の実施」

【助成額】 35万円

### 実施目的

- ①若い人の集まりが少ない中、若者で集まれる交流会を立ち上げ、悩みを共有し、(お互いのピア)心身の安定を図る。
- ②就労活動の支援をする。(パソコンパソコン研修や社会人基礎力…等、若者に必要なニーズに合った研修会も開催し、就労支援をする。

### 実施内容

【若者交流会】

日程と場所

- ① 4月13日(日) 若者交流会運営準備(岡山県難病団体連絡協議会事務局(難病連))
- ② 5月26日(日) 第4回難病若者交流会(ゆうあいセンターオープンスペース)
- ③ 6月1日(日) 運営準備(難病連事務局)
- ④ 6月23日(日) 第5回難病若者交流会(ゆうあいセンターオープンスペース)
- ⑤ 6月23日(日) 若者交流会運営準備(難病連事務局)
- ⑥ 7月28日(日) 第6回難病若者交流会(ゆうあいセンターオープンスペース)

- ⑦ 8月25日(日)第7回難病若者交流会(ゆうあいセンターオープンスペース)
- ⑧ 9月7日(土)若者交流会運営準備(難病連事務局)
- ⑨ 9月14日(土)若者交流会運営準備(難病連事務局)
- ⑩ 9月29日(日)第8回難病若者交流会(ゆうあいセンター小会議室3)
- ⑪ 10月5日(土)若者交流会運営準備(難病連事務局)
- ⑫ 10月22日(火)若者交流会運営準備(難病連事務局)
- ⑬ 10月27日(日)第9回難病若者交流会&難病ウォーキングキャンペーン(倉敷市美観地区等)
- ⑭ 11月9日(土)若者交流会運営準備(難病連事務局)
- ⑮ 11月16日(土)若者交流会運営準備(難病連事務局)
- ⑯ 11月24日(日)第10回難病若者交流会(ゆうあいセンター小会議室3)
- ⑰ 12月8日(土)若者交流会運営準備(難病連事務局)
- ⑱ 12月22日(日)第11回難病若者交流会(岡山市表町表町こべや)
- ⑲ 1月18日(土)若者交流会運営準備(難病連事務局)
- ⑳ 2月15日(土)第12回難病若者交流会(難病連事務局)
- ㉑ 2月29日(土)若者交流会運営準備(難病連事務局)
- ㉒ 3月28日(土)第13回難病若者交流会



(花見交流会を計画していたが、季節柄外での交流会が苦手な人やコロナウイルス等のため変更予定)

#### 内容

◆運営とは、交流会でどのようなことをするか？若者交流会を立ち上げた代表者と難病連の事務局員が協力して、場所の確保や広報を行っていたが、8月25日に若者交流会参加者の中から、企画運営委員を選び、役割分担を行い、その中でチラシを作成したり、運営に必要な物の準備等を行う事とした。できるだけ若者が自主的に運営を行うが、それぞれ仕事を持っているため、詳細事項、会計、行政やメディアへの広報などは難病連が引き続き行い、若者の手助けをしていく。また、難病連は若者だけでは、暴走しやすくなる話し合いを見守るため最低一人は難病団体から参加する。意見は出さず見守り、記録を行ったり、助けが必要な時や意見を求められたときのみ、助言する。

- ・第4回~7回:難病を持つ10代後半から30代までの人が、自由に参加し、就労や仕事、医療、恋愛や結婚について、話したり聞いたりすることで、お互いのピアサポートをし、交流することで心身の安定をはかる。
- ・第8回:今までの話し合いの中から出てきた、「難病のため保険に加入できない」という悩みに答え、専門のファイナンシャルプランナーの方と、保険代理店の方を講師に招いて、病気でも入れる保険のことや、病気でも将来を見据えた人生設計することの大切さを学んだ。その後、通常の交流会を開いた。
- ・第9回:難病ウォーキングキャンペーンを難病団体と一緒に運営し参加した。病名の違う人や、幅広い年齢層の方々との交流をしながら、難病の啓発活動を行った。
- ・第10回:就労や仕事に役立つ「社会人教育」について、キャリアカウンセラーの資格をもつ講師を招いて学んだ。その後、交流会をおこなった。
- ・第11回:クリスマス会を開いた。いつもの場所とは違い、食事やゲームをしながら楽しく交流した。
- ・第12回:コーヒーを入れることが好きな参加者(夢は喫茶店を開くこと)が、コーヒーを振舞いながら、交流した。
- ・第13回:花見交流会外で交流をすることが少ない中、桜を見ながら交流したいと計画していたが、季節柄体調不良者やコロナウイルス予防等で中止とした。

## 【パソコン教室(情報セキュリティマネジメント講座)】

これからはITに詳しい人材が求められる時代になってくることから、ITに関する基礎的な知識が証明できる国家資格を取得することで、就労や仕事に有利になってくる。国家資格なので、社員に自発的に取得することを推奨したり、社員教育として行う企業が岡山県内にも出て来ている。難病患者の中には就労に困っている方や、仕事をしていても転職したい、体力的にも事務職に変わりたいなどの声を聴いていたことから、国家資格なので就労や転職に有利であるのではと。これから就労に頑張る患者の方や仕事に活かしたい方を対象に、国家試験に向けての講座を始めた。

### 日程と場所

場所は難病連事務局で行う。(一度会議室を借りて講座を開くが、WiFiは事務局でないと繋がらず、netが必要なため事務局での開催)6月1日第7回のみ、ゆうあいセンター小会議室で行う。

### 前期

第1回4月13日(土)／第2回4月20日(土)／第3回4月27日(土)

第4回5月11日(土)／第5回5月18日(土)／第6回5月27日(土)

第7回6月1日(土)／第8回6月8日(土)／第9回6月15日(土)／第10回6月22日(土)

第11回6月29日(土)／第12回7月6日(土)／第13回7月13日(土)

補習講座①7月20日(土)／補習講座②7月27日(土)補講

15回講座を行った。



### 後期

前期は毎週土曜日に開催したが、仕事の都合や、

体調などで毎週は無理であることから、

後期は、一日2講座を行い、出向く日数を減らした。

第1回・第2回12月14日(土)／第3回12月21日(土)／第4回・第5回1月11日(土)

第6回1月26日(日)／第7回・第8回2月15日(土)／第9回・補習講座①2月22日(土)

第10回・第11回2月29日(土)／第12回・補習講座②3月7日(日)／補習講座③3月22日(日)

15講座を行った。

### 内容

・企業活動・法務・経営戦略マネジメント・技術戦略マネジメント・ビジネスインダストリ・システム戦略・システム企画・システム開発技術・ソフトウェア開発管理技術・プロジェクトマネジメント・システム監査・基礎理論・アルゴリズムとプログラミング・コンピュータ構成要素・システム構成要素・ソフトウェア・ハードウェア・ヒューマンインターフェース・マルチメディア・データベース・ネットワーク・セキュリティ・・・全23項目を学んだ。

### 得られた効果

① 若者交流会を立ち上げることで、岡山県難病団体連絡協議会が行うイベント(フォーラムや総会、医療講演会等)に参加する人は、年齢層が高かったが、若者交流会を立ち上げたことで、若い人の参加も増えてきた。若者交流会に置いては、「難病の若い年代で集まれる場所が欲しかった。」「病気の子とや就職や仕事の事が話し合える場所が出来て良かった。」「難病になって恋愛や結婚どうしているのだろうか?と人の話が聴けてよかった。」など、話をする中で、元気を貰ったり、共感し合えた・・・等、答えが出るわけでもないけれど、心の安定をはかる有意義な会となった。

② 今仕事をしているけれど、難病をわかって貰えない、身体がついて行かない・・・など、転職を考えている人の、有利になる資格取得の研修となった。ITパスポート国家資格試験に数名挑んだ。何回か受け、1名の合格者。後少しの点数で合格を逃した受講生もいる。今後試験を受けていく。内容で分からない事等、今後もフォローを講師の先生がしてくださることとなった。

また、受講した事で、このような資格がある事を知らなかったのがよかった。パソコンの基礎知識ができ、セキュリティについて気をつけることが身につき、試験に通らなかったが、仕事にも活かせるという感想もあったり、パソコンが身近に感じられ苦手意識が弱まり、今後も勉強していこうと思う人もいた。試験は今後も度々あるので、自主勉強をして受験していきたいという意欲を持つことができた。

## 今後の課題

難病患者は年々増え続け、岡山県でも一万五千人以上はいるとされている。若くして難病になっている人も多いと思われる。中には、外に出る勇気がない人、悩んでいる人もいるはずである。チラシは岡山県や、岡山市に送り、保健所やふれあいセンターなどの公共機関に設置してもらっている。例えば、クリスマス会の時、チラシの減り具合を確認に数施設見て回るとチラシはなくなっているの、興味はあるが、参加する勇気がない人も多いと思われる。体調もあるのかもしれないが、新たに参加する難病患者の人がどうしたら勇気を持ち外に出て来られるのか考え、参加者を増やしていきたい。そのためにも、外に出る機会を今後も作り、若い人の活動を支援していきたい。一人で悩んでいる人に、同じ仲間がピアし合いながら精神的に助け合える会を広げていきたい。

難病は体調が安定しないため、参加予定にしているも急に体調が悪くなり、参加したくてもできない人もいる。そのため、外に出ていくことを躊躇してしまう人が多い様である。そのため、引きこもったり、精神不安定にもなってしまう人もいる。そのような人が、社会復帰やなじめるようにしていくにはどのようにしたらよいのか、常に考え、難病患者が生活しやすい環境を探していきたい。

# 公益社団法人岡山県難聴者協会

<http://www.okanankyo.org/>

【所在地】 岡山県岡山市

【対象者】 聴覚障がい者

【日常の活動】

耳の日の集い事業。各種教室事業（食育教室、フラ教室）

広報誌「岡山難聴」による広報活動。ホームページによる広報活動。

慈善事業（チャリティバザー事業）岡山刑務所での「矯正展」に店を出し、バザー事業を行っている。

総会、新年会、忘年会、お花見会など会員および要約筆記者を含めた交流事業。

## 「公益社団法人岡山県難聴者協会創立 50 周年記念誌刊行」

【助成額】 39万円

### 実施目的

岡山県難聴者協会 1969 年に創立し、昨年創立50周年を迎えた。この機会に50年の歴史を振り返り、記録を残すとともに、会員の寄稿文を掲載した記念誌を刊行して、明日への指針とし、協会の活動を広く一般の方々にも知っていただくことを目的に実施しました。

### 実施内容

50周年記念誌は、A4 版65ページで、250部作成。会員や要約筆記者などの寄稿文を掲載、年譜や活動の様子を写真で紹介した。2020年3月31日に刊行し、会員・支援者・行政など関係団体・者に配布しました。

### 得られた効果

山陽新聞に刊行が記事として取り上げられ、一般の方々に岡山県難聴者協会の活動が紹介されました。また岡山県立図書館・岡山市立中央図書館に納品し、今後閲覧等に利用していただけるものと思います。これらにより、難聴者を始め家族や職場などの関係者に難聴者の存在と対応の仕方を理解していただけるようになればと願っています。また、要約筆記者団体など支援者の方々にも配布し、連携しあって協会の活動のより一層の啓発に役立てるものと期待しています。

### 今後の課題

会員の高齢化による会員数の減少が大きな課題です。要約筆記者など支援者は増えているのですが、急速に増加している加齢性の難聴者が協会の活動に参加していただこうよう取り組んでいかなければならないと考えています。まだまだ難聴者に対する理解は十分とは言えない状況ですので、引き続き難聴という障がいへの社会の理解と配慮を求めて活動していく必要があります。

超高齢化社会に向かう中、加齢性の難聴の増加は社会全体で取り組まなければならない大きな課題です。50周年記念事業にシンポジウム「加齢性の難聴を考える」を開催しましたが、当事者・支援者のみならず、行政や医療・教育機関などの関係者の連携の必要性が浮き彫りになりました。この報告集の刊行を準備中（7月完工予定）です。

# 一般社団法人ドッグフォーライフジャパン

<https://dogforlife.org/>

【所在地】 愛媛県松山市

【対象者】 身体障がい者

【日常の活動】

## ■介助犬・聴導犬育成事業

「完全成功報酬制」であり貸与が正式決定したのちに支払われるもの。

介助犬・聴導犬は法律では自助具となるため、補聴器や車椅子購入費の補助と同じ扱いとなる。

そのため、練中の犬や訓練途中で不適合となった犬の育成費用、貸与後のアフターフォロー費用（旅費・宿泊費・訓練費）は全て自己負担となる。

## 「支援者を増やすための団体広報ツール作成」

【助成額】 26万円

### 実施目的

運営資金の確保のため団体活動を支援してもらえる賛助会員、寄付金、ボランティア、講演依頼などを広報ツールの活用で増やす。それにより介助犬・聴導犬の育成や啓蒙活動にさらに注力することができ普及を加速させ団体の活動範囲を広げたい

### 実施内容

愛媛県障がい者アート芸術祭、松山市役所障害福祉課、松山市みんなの生活展など

10月13日、14日 愛媛県障がい者アート芸術祭（松山市大街道商店街）

10月16日 松山市障害福祉課職員対象、補助犬講座（松山市役所）

10月19日 松山市みんなの生活展（松山市大街道商店街三越前）

11月4日 愛媛県障害者事業団 ほほえみフェスタ2019（身体障がい者福祉センター）

上記イベントにて来場者に一般用パンフレットを約200部、事業所パンフレットを市役所職員に30部配布  
イベント会場にて担当者などと名刺交換

今後の配布予定

11月9日 松山市若草福祉まつり（松山市社会福祉協議会）

11月10日 補助犬フレンドリー祭り（岡山駅）

11月16日 えひめ福祉博2019（愛媛銀行研修所）

11月17日 名古屋市身体障害者福祉大会  
（名古屋市中区役所ホール）

11月23日 愛媛県視聴覚センター文化祭  
（県視聴覚センター）

12月7日 補助犬フレンドリー祭り（阪急梅田）

12月8日 広島県ヒューマンフェスタひろしま2019  
（広島駅）



得られた効果

ターゲットを分けた2種類の団体紹介パンフレット(一般向け団体紹介用、法人賛助会員獲得用)を計2000部作成した。また、法人営業用名刺1800枚を作成した。

介助犬・聴導犬が紹介できるイベントにおいて、そのパンフレットを見た来場者に対して介助犬・聴導犬の育成を当会が行っていること及び育成の必要性が明確に伝えることができた。特に今までの質問で多かった「(補助犬は)どこで育てているんですか?」という基本的な質問が大幅に減少した。

パンフレットを作成する以前は、介助犬や聴導犬の必要意義から説明をする必要があったところ、今回のパンフレット作成によって、それらを読みながら質問をしてくるイベント来場者や、当会が介助犬・聴導犬の育成のための支援を必要としていることについてわかりやすく伝えることができるようになった。

パンフレット活用の結果、当会の関係者以外での賛助会員が1ヶ月で3名、法人会員が2社新たに獲得することができた。また、広報ツールに掲載したQRコードから、当会ホームページへのアクセス数の増加や当会のfacebook等のSNSのフォロー数増加といった、副次的な効果も見られた。

日々の活動内容を伝えられる支援者が増加したことにより、介助犬や聴導犬の寄付物品として登録したAmazonのサービス『欲しい物リスト』からの支援物資の寄付も増加している。

また、名刺を理事に作成したことで、団体の一員だという意識があがり各理事達が個人のSNSでの支援者呼びかけや、活動に積極的に関わるようになり団体の一体感も増した。

今後の課題

個人会員を地道に獲得し当会のファンを増やすとともに、法人会員の獲得をさらに強化し、安定した資金運営ができるよう活動を行っていききたい。

そして、介助犬や聴導犬育成のためのトレーナーを1名増やし、訓練犬頭数を増やすことを目標としたい。

また、今後も継続的に福祉イベントや小学校への出張授業などの普及活動の場をさらに増やして、育成頭数の増加と普及活動に力を入れていきたいと考えている。

犬と歩む人生をあなたに

一般社団法人ドッグフレンズアイランドは、「介助犬・聴導犬の育成を通じて障害のある方の社会参加を促進し、豊かな人生(生き)を送る支援を続けていきます」

501号 502号 503号

- 身体障害者犬の育成費が半額減額
- 聴導犬の育成費減額
- 聴覚障害者支援の普及活動
- 聴覚障害者支援の普及活動

身体障害者補助犬とは?

「身体障害者補助犬とは、身体障害者、聴覚障害者、知的障害者等の生活の自立を支援する役割を担う犬を指します。」

介助犬 手足の障害のある人を補助する犬  
聴導犬 耳の障害のある人を補助する犬  
盲導犬 目の障害のある人を補助する犬

育成費の目安	費用
介助犬	約30万円
聴導犬	約20万円
盲導犬	約15万円

育成費の目安は「全体的に、育成費は約30万円程度です。育成費は育成期間中に発生する費用であり、育成期間終了後は、育成費は発生しません。」

当協会は「介助犬」「聴導犬」を育成し、障害のある方に、無料で貸与しています。

「手足の不自由な人」を助ける犬  
**介助犬**

「耳の不自由な人」を助ける犬  
**聴導犬**

「目の不自由な人」を助ける犬  
**盲導犬**

育成期間中は、育成費が半額減額です。育成期間終了後は、育成費は発生しません。

身体障害者補助犬とは?

「身体障害者補助犬とは、身体障害者、聴覚障害者、知的障害者等の生活の自立を支援する役割を担う犬を指します。」

介助犬 手足の障害のある人を補助する犬  
聴導犬 耳の障害のある人を補助する犬  
盲導犬 目の障害のある人を補助する犬

介助犬・聴導犬の育成費、運営費などで困っています…

1頭あたりの介助犬・聴導犬に、かかる費用約300万円

育成費 約30万円  
育成費 約20万円  
育成費 約15万円

私たちは愛媛県で唯一、介助犬・聴導犬の育成と普及活動を行っています。

# 特定非営利活動法人ハッピーブリンデン

<http://hapicon.net/>

【所在地】 鹿児島県いちき串木野市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、小学生 等

【日常の活動】

“耳の聞こえない子どもたちも、聞こえる子どもたちも、大人も一緒に同じ空間で音楽が楽しめるハッピーブリンデン「歌のバリアフリーコンサート」の開催

## 「ハッピーブリンデン『歌のバリアフリーコンサート』音響機材購入」

【助成額】 79万円

### 実施目的

近年は、ほとんどの小学校で芸術鑑賞会費を保護者の方々から徴収しておらず、予算の面で、特に小学校での公演が難しい状況になっています。現在は音響・照明機材を毎回レンタルしており、1回の公演につき、保育園で5万円、小学校で10万円ほどの音響・照明機材レンタル経費がかかっています。そこで、貴財団の助成金によって、機材購入の補助をしていただき、機材レンタル費を抑えることで、小学校等でご紹介しやすくなり、より多くの場所・子どもたちにコンサートをお届けできると考えました。

### 実施内容

ハッピーブリンデン「歌のバリアフリーコンサート」音響機材購入の補助とさせていただきます。

- ワイヤレスレシーバー1台 ■レシーバーケース1台
- ワイヤレストランスミッター2波
- ヘッドセットマイク2本 ■デジタルミキサー1台



### 得られた効果

今までのハッピーブリンデンの「歌のバリアフリーコンサート」で使用する音響機材は、20年以上前に購入したものであったり、レンタルしたものでしたが、今回の木口福祉財団様の助成金により、上記の音響機材を購入することができました。また、2022年の電波法改正により、現在ハッピーブリンデンが所有する古い型の音響機材は使えなくなり、コンサート活動継続のためにどうしても新規で音響機材を購入しなければならない状況でした。しかし、ハッピーブリンデンは、営利事業等を行っていないので、それに充てる費用の捻出に大変苦労しておりました。今後は、音響機材のレンタル経費を抑えることができ、抑えることができた経費を、さらに必要な音響機材の購入に貯蓄するなど、今回を機に、今後の課題解消の足がかりとしたいと考えます。また、より多くの場所・子どもたちへコンサート実施をすることが可能となりますので、メンバー・スタッフ一同大変喜び、やる気に溢れています。本当に感謝申し上げます。

### 今後の課題

「歌のバリアフリーコンサート」の中で、メンバーが使用するヘッドセットマイクは4本です。今回購入させていただいたヘッドセットマイクは2本で、完全に音響機材レンタル経費を抑えるためには、残り2名のための、ワイヤレスレシーバー1台、ワイヤレストランスミッター2波、ヘッドセットマイク2本、スピーカー2本、アンプ1台等の費用を確保しなければならないという課題が残っています。また、2022年の電波法改正に向けて、残りの音響機材を一

# 2019年度 選考委員

選考委員長

中田 智恵海

特定非営利活動法人ひょうごセルフヘルプ支援センター 代表

福田 好宏

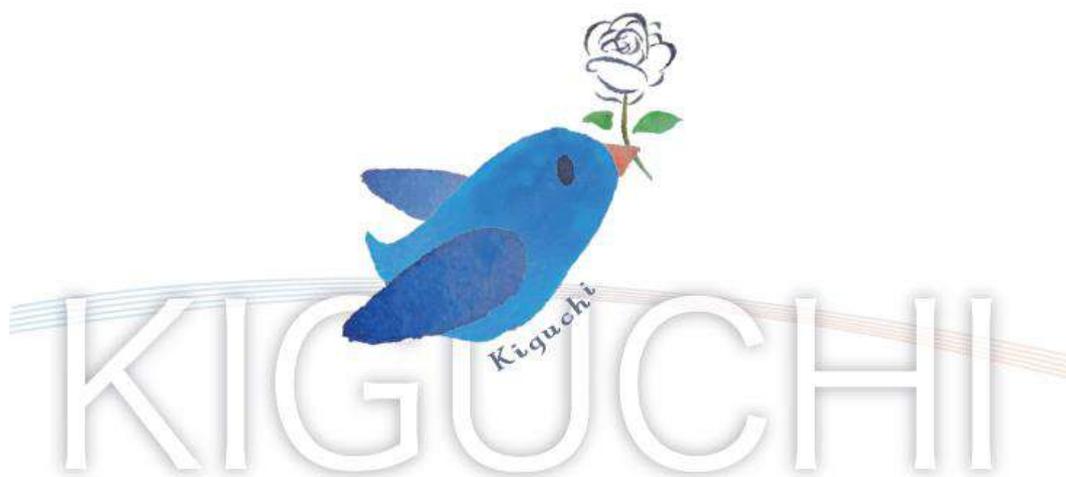
社会福祉法人兵庫県社会福祉協議会 副会長兼常務理事

松本 博子

社会福祉法人兵庫県共同募金会 事務局長

木口 由美

公益財団法人木口福祉財団 専務理事



---

公益財団法人木口福祉財団

〒659-0051 兵庫県芦屋市呉川町14番10号

TEL 0797-21-5150

FAX 0797-35-4500

e-mail [josei@kiguchi.or.jp](mailto:josei@kiguchi.or.jp) URL <http://www.kiguchi.or.jp>

---

2020年12月発行